

令和4年7月14日

小山市教育委員会

教育長 濱口 隆晴 様

小山市立生涯学習センターの  
連携等に関する運営懇話会  
会長 陣内 雄次

## はじめに

小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会は、生涯学習センターの課題及び運営の検討並びに総合的かつ効果的な活用のために必要な事項について懇談し、提言をすることを目的として、令和4年4月1日に会の設置と委員の委嘱がなされました。

令和4年4月26日には第1回会議が開催され、7月11日の第6回会議までの全6回にわたり積極的な意見交換及び検討がなされました。

小山市にて作成された「小山市立生涯学習センターの在り方に関する基本理念」にまとめられている小山市立生涯学習センターの現状と課題、求められる役割・機能を踏まえ、本懇話会では、小山市教育委員会事務局が抱えるマネジメントの課題を整理し、小山市立生涯学習センターが目指すべき運営の在り方や事業の取り組み方について検討した結果を、提言書として提出します。

併せて、今後、小山市立生涯学習センターの事業計画を作成する上で取り入れていただきたい点についても付帯意見としてまとめました。

本提言及び付帯意見の趣旨を活かし、小山市立生涯学習センターが、小山市の生涯学習を推進するための中心機関として、多くの市民に親しまれ必要とされる施設として継続するとともに、さらなる発展のために尽力されることを強く期待するものです。

## 提 言 書

小山市立生涯学習センター（以下、生涯学習センター）の運営の在り方については、「今後、小山市の状況に応じて生涯学習センターの機能の充実を図り、それに相応しい運営形態を探るため、令和5年度からまずは5年間で部分委託も導入しながら生涯学習センターを市職員による直営によって運営するとともに、事業企画を職員が直接担い、試行期間として実践する期間とすることが適当である。」と提言します。

ただし、次にまとめる付帯意見についても十分に尊重され、生涯学習センターの運営計画や事業計画の立案及び実践に活かされるとともに、時流に合わせ理念とコストのバランスを考慮しながら、生涯学習の振興に資する取り組みが推進されることを強く要望します。

令和4年7月14日

小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

## 付 帯 意 見

### (1) 生涯学習事業を展開する基本要件

- ① 市民と市職員とが共に育っていくために、生涯学習センターの運営に関して、市民の積極的な参画及び市民と行政との協働の実現に真摯に取り組むこと
- ② 生涯学習事業の取り組みにおいて、市職員が横断的に所属の垣根を越え、市民と対話する場の仕組みづくりと実践に努めること
- ③ 生涯学習事業の取り組みは、小山市の未来のための人づくり<sup>1</sup>と捉えること

### (2) 懇話会が実現を望む生涯学習センターの「理想の姿」

- ① 「小山市立生涯学習センター条例」の改正が必要と考える。  
なお、改正により条文に取り入れて欲しい内容は、主に以下のとおりである。

#### ●生涯学習センター特有の機能と事業内容に関すること

- ・生涯学習に関する学習機会を提供すること
- ・生涯学習指導者等の人材育成を行うこと
- ・生涯学習に関する調査研究や、企画立案・実施、啓発を行うこと
- ・生涯学習に関する情報の収集と提供、学習相談を行うこと
- ・関係機関との連携と支援を行うこと
- ・自ら主体的に生涯学習活動とまちづくりに参画している市民や多様な団体と連携することや、市民や団体同士の交流を支援すること

---

<sup>1</sup> 「人づくり」の人には、老若男女、外国人、障がいのある方など広く多様な市民、そして小山市職員も含まれる

## ●運営委員会を設置すること

生涯学習センターの適正かつ円滑な運営を図るために、運営委員会を置き、事業内容等について市民との対話を行うこと

## ●社会教育主事及び社会教育士の配置に関すること

生涯学習センターに、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与えることのできる社会教育主事（必要条件を満たし教育委員会に配属され発令されることが必要）や、社会教育士（特に教育委員会職員でなくても、行政職員でなくても、必要条件を満たせば誰でも称することができる）を置くこと

- ② 生涯学習センターが、小山市の生涯学習推進の中心機関となることを望む。

（主な役割）

ア 生涯学習情報の収集・発信

- ・生涯学習情報（講座、講師・サークル情報等）の一元化・発信
- ・市内の生涯学習活動・市民活動等の状況把握

イ 中心機関にふさわしい事業内容

- ・生涯学習センターならではの全市民対象事業の実施
- ・生涯学習に関する相談体制の充実
- ・公民館、市民交流センター、コミュニティセンターへの支援の充実

ウ 連携・コーディネート

- ・複数の団体・部署間のコラボレーション事業の実施
- ・生涯学習関係の各種協議会、審議会、委員会の取り組みとの連動
- ・公民館運営審議会への生涯学習センターの参加

## エ 人材育成

- ・生涯学習指導者・コーディネーター（市民・職員ともに）の人材育成
- ・市民自ら課題や興味を発見し、学習機会を企画立案できる力を育む事業の実施

## オ 施設

- ・生涯学習センター施設の利用促進のための方策検討

- ③ 生涯学習センターが、未来の小山市を創造する人材の育成を推進することを望む。

## ア 子どもたちや若者の社会参画につながる学びの推進

- ・子どもたちや若者が活躍できる多彩な体験事業、地域活動の立案と実践

## イ 生涯学習センター事業の積極的な活用

- ・子どもたちや若者が生涯学習センターの事業運営や企画に参画できる仕組みづくり

- ④ 生涯学習センターが、子どもの成長を中心にした市民の絆づくりを推進することを望む。

## ア 地域学校協働活動<sup>2</sup>の推進

- ・地域全体で子どもたちの学びや育ちを支えるための体制づくり
- ・市内の地域学校協働活動の情報共有

---

<sup>2</sup>地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動

社会教育法第5条第2項により、学校と協働して行う以下の活動と規定される

●学校の授業終了後又は休業日において学校、社会教育施設等で行う学習、その他の活動

●ボランティア活動、社会奉仕体験活動、自然体験活動、その他の体験活動

●社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して学校、社会教育施設等で行う教育活動、その他の活動

イ 家庭教育支援の充実

- ・親の育ちとつながりづくりを応援する学びの機会の充実
- ・家庭教育の支援のネットワークを広げる体制づくり

ウ 子どもを核とした市民の相互信頼の構築

- ・子どもの育ちに携わる幅広い市民同士のつながりづくり
- ・大人と子どもの信頼関係を育む機会の充実

⑤ 共生社会の実現を目指した生涯学習が充実することを望む。

ア 人生100年時代を見据えた生涯学習の展開

- ・全ての人が多様なライフステージに応じて、学ぶ幸せを実感できる生涯学習の推進

イ 多様な人が生き生きと学び合える学習機会の充実

- ・障がい者の生涯学習推進
- ・外国人住民を対象とした学びの支援と「地域住民」としてコミュニティに積極的に参加できる豊かな地域づくり推進

⑥ 市民の声を反映させた質の高い生涯学習事業が展開されることを望む。

ア 市民フォーラムや市民アンケートによる地域住民のニーズ把握

イ 市民のニーズを踏まえた事業展開

## おわりに

本提言は、小山市立生涯学習センター（以下、生涯学習センター）の新たな1ページを開くべく、委員18名の総意としてとりまとめたものです。

市直営による運営については、全ての懸念が払拭された訳ではありません。しかし、小山市民にとって今以上に有意義な生涯学習センターとなるべく、その「理想の姿」を目指すべきであると判断しました。

これは市当局だけでなく、小山市民にとっても大きなチャレンジであり、「理想の姿」を理想に終わらせないためにも、参画と協働が求められます。決してたやすいことではありませんが、対話の場をデザインし実践していくことで、必ず到達できるものであると考えています。本懇話会に参画し、市当局と小山市民には、そのチカラがあると確信したところです。

なお、本提言書は個別的な細部にわたる内容には踏み込んでいません。個別具体については、常にかかれたカタチで検討・評価を継続されるようお願いいたします。

小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

会長 陣内 雄次

## 小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

委員名簿（任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日まで）

会 長	陣内 雄次	（宇都宮共和大学、栃木県教育委員会委員）
副 会 長	鈴木 久美子	（社会教育委員）
委 員	引橋 三佐夫	（生涯学習推進協議会）
	栗原 要子	（公民館運営審議会）
	柿崎 全良	（青少年健全育成連絡協議会）
	岸 利子	（オカリナアンサンブル小山）
	中野 晴永	（車屋美術館）
	八木 利典	（小山市自治会連合会）
	木村 和子	（あさひコミュニティ推進協議会）
	小針 協子	（小山市市民活動センター）
	宮内 せつ子	（小山商工会議所 女性経営者会）
	福本 佳之	（小山駅周辺地区まちづくりプラン検討委員会）
	鈴木 正俊	（栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所）
	石井 大一郎	（宇都宮大学 地域デザイン科学部）
	児玉 博昭	（白鷗大学 法学部）
	青木 美智子	（小山市議会議員）
	福田 幸平	（小山市議会議員）
	嶋田 積男	（小山市議会議員）

（順不同）



# 資料編

資料1 懇話会開催記録

資料2 懇話会会議結果報告書（会議録概要版）

資料3 市民フォーラム  
「これからの生涯学習センターを考えてみよう」  
実施報告

資料4 市民アンケート（令和4年4月8日～6月15日）  
実施報告

## 懇話会開催記録

- ・ 第 1 回懇話会 令和 4 年 4 月 2 6 日（火）  
委嘱状交付、会長・副会長選出、  
論点整理①（下都賀教育事務所 ふれあい学習課 鈴木 正俊 副主幹）、  
事務局説明（懇話会開催趣旨、懇話会開催スケジュール）  
意見交換
- ・ 第 2 回懇話会 令和 4 年 5 月 1 2 日（木）  
論点整理②（宇都宮共和大学 陣内 雄次 教授）  
事務局説明（基本理念、市民の声を聴く機会）  
意見交換
- ・ 第 3 回懇話会 令和 4 年 5 月 2 6 日（木）  
論点整理③（白鷗大学 児玉 博昭 教授）  
論点整理④（宇都宮大学 石井 大一郎 准教授）  
意見交換
- ・ 第 4 回懇話会 令和 4 年 6 月 1 0 日（金）  
事務局説明（ロードマップ、事業実施計画試案、コスト比較）  
意見交換
- ・ 第 5 回懇話会 令和 4 年 6 月 3 0 日（木）  
事務局説明（提言書案）  
意見交換
- ・ 第 6 回懇話会 令和 4 年 7 月 1 1 日（月）  
事務局説明（提言書修正案）  
意見交換

小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会委員委嘱状交付式  
令和4年度第1回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

会議結果報告書

1. 日 時 令和4年4月26日(火) 10:00~11:30
2. 会 場 文化センター 小ホール
3. 出席委員 18名出席(欠席者なし)
4. 懇 話 会

◆会長・副会長選出

互選により、会長：陣内雄次委員 副会長：鈴木久美子委員 に決定。

◆議事及び事務局説明事項

- (1) 論点整理1(下都賀教育事務所ふれあい学習課)  
「生涯学習概論・国・県の生涯学習施策について」
- (2) 本懇話会開催の目的・趣旨
- (3) 今後の検討体制
- (4) 本懇話会の開催スケジュール

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。

委員からの主な意見等は次のとおりです。

【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・現在の生涯学習センター事業の評価について、あまり芳しくないという評価を受けているという事で良いか？また、指定管理者の選定時に、何社位の応募があったのか？応募者間での競争の有無を知りたい。	・生涯学習センター事業の評価については、A評価をつけています。 指定管理者の選定には、当時5社からの応募があり、競争を行った結果、現在の事業者に決定しました。
・(前の質疑を受けて)現在の事業者を否定するのではなく、改めて生涯学習センターのあり方を議論したいという事で良いか？	・お見込みのとおりです。

<p>・これまでの市内の生涯学習関連施設は、どのように施設間で連携していたのか。施設同士の連携が出来ていけば、建物の規模に応じて学習のすみわけが出来るのでは。</p>	<p>・現在、生涯学習センターについては他の施設との連携は特になく、将来的には公民館や市民交流センターと連携していきたいと考えています。具体的な連携内容については第2回目の懇話会にてご説明する予定です。</p>
<p>・社会教育主事について、市の考えを知りたい。</p>	<p>・社会教育主事については、現在積極的に養成しており、今後も定期的に増やしていく予定です。</p>
<p>【その他】</p> <p>・各委員からの質疑応答を踏まえ、陣内会長から、懇話会は現在の指定管理者を否定する訳ではなく、小山市における生涯学習、それを進めていくための生涯学習センターのあり方について検討する場であることを念頭に議事を進めていくことを会全体の統一認識として確認しました。</p>	

◆質疑応答後、次回の日程(5/12 開催)についてご連絡し、閉会しました。

令和4年度第2回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会  
会議結果報告書

1. 日 時 令和4年5月12日(木) 13:15~15:15
2. 会 場 文化センター 小ホール
3. 出席委員 17名出席(1名欠席)
4. 懇 話 会

◆議事及び事務局説明事項

- (1) 論点整理2(宇都宮共和大学 陣内雄次教授)  
「まちづくりに関することの振り返りと小山市生涯学習センターへの期待」
- (2) 小山市立生涯学習センターの基本理念について
- (3) 市民の声を聴く機会について

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。

委員からの主な意見等は次のとおりです。

【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・小山城南交流センターは、公民館機能はないが、コミュニティセンターを併設して学びの場を提供している。P15の図にコミュニティセンターを追加していただきたい。	・ご指摘のとおり追加いたします。
・市民活動センターは、ただ単に市民活動をすればいいということではなく、生涯学習センターの学びが必要だと認識している。市民活動についての組織運営・マネジネメント、資金のまわし方、費用対効果等について確認・支援・アドバイスをする中で、生涯学習の学びというのは活動の栄養になっている。	

<p>・自分が今何か足りないけれど何かやりたいと思っている人が学びに行くところが生涯学習センターであり、そこを卒業して自主的にある程度行動できる人が集まって活動するところが市民活動センターである。生涯学習センターと市民活動センターは、実際に行われる活動が異質であるため、生涯学習センター関連施設の関係図は、今運営している形とリンクさせてもう少し実情に沿った形に近づけ、かつ理想的な方向にする議論が必要。</p>	
<p>・市民がいろいろと意見を出し合っ て持ち上げたものを生涯学習センターがまとめればよい。実践的に動く人をどれだけ増やせるかが重要である。</p>	
<p>・1つ1つの案件について、どこに話をもっていったらよいか明確でなかったところが問題。生涯学習センターがランドマーク的な位置づけになれば、生涯学習に関わる団体などが意見を1つにまとめるということが可能になるでは。</p>	<p>・実践されている方のいろいろな意見を聞くというのが大切だと感じました。またご意見をいただいて、生涯学習センターをどういう風にしていくかを考えるための資料にしていきたいと考えております。</p>
<p>・P15の「未来」の図の中央公民館の在り方について。かつては中央公民館が指導的な役割で各公民館の講座等をおこなってきた。各地区に公民館があるが、小山地区が「中央」というのはどうなのか。中央公民館は小山地区の公民館も一緒に担っているということか。</p>	<p>・生涯学習センターが生涯学習の拠点となれば、中央公民館は小山地区の公民館となる。その場合、名称が紛らわしいので、例えば「小山公民館」などといった形での名称変更も考えている。</p>
<p>・防災の事例について。小山の北部地区では水害の際、社会福祉協議会で声をかけて災害弱者に水を配った。地元はやる気がある。そこを広げていけばいい。</p>	<p>・特に防災については、地元の1人1人の働きが大切であり、そこに行政がどのように寄り添い支援していくか、また地元にも既に存在する協力体制などをどれだけ拾い集めていけるかが大切だと認識した。</p>

<p>・第4章の具体的施策・事業の4つの項目がすべて疑問形で終わっているのはなぜか。どういう意図でそのようにしたのか。</p>	<p>・職員や生涯学習センターを運営する者が講座を企画する際に、この視点を持っているかを自ら問い、チェックすることを忘れないようにするということを表しているため。</p>
<p>・防災の事例は、既に小山市でも行っている事業ではないか。社会福祉協議会が中心になってボランティアを集めて行っている事業がある。同じ事業を異なる部署で行っても意味がない。</p>	<p>・各公民館で同じことを行っているものもあれば、その地区ごとの伝統的なことや、繋いでいかなければならないことを行っているものもある。それらを重ならないように、または逆に重ねて周知したりなど選別しながら行っていきたい。</p>
<p>・各地にある自治会や市民交流センターが行う催し物を生涯学習センターが差配するというのは話が太枠過ぎる。市民活動として生涯学習センターが行わなければならない部分をもう少し絞った方が良い。 このまま進めると携わる人数や必要な建物面積が相当ないと実現できないのではないのか。本当に実現可能なのかどうか考えないといけない。</p>	<p>・第4章4-2は、行いたい事業をたくさん盛り込んだ資料となっている。今後運営方針が決まり次第、具体的な実施計画でご意見を取り入れながら重要性・重複性について考えながら企画していきたい。</p>
<p>・防災について、大災害があったときに、どういう風に動くのか、一番最初に何をすればよいのかと消防にも言ったがわかっていない。災害時にどう動くのかを打ち合わせするなどして、リーダーとしての教育を生涯学習センター等で行わなくてはならない。</p>	<p>・防災については、まず地域において自分はどんな立場で自分のいる場所はどんなところで、どう逃げなければいけないのかということから認識することから始まる。生涯学習ということで、まず気づきの部分を市民全体に広げていきたい。</p>

<p>・講座パッケージをつくって公民館を支援するというの大きな力になる。重なってもいい部分・重ならない方がいい部分、いろいろなアイデアがいただけるのは素晴らしいことだと思った。</p>	
<p>・市民の声を聴く機会について、日にちがない。市民の方にどのように周知するのか。</p>	<p>・短期間での開催になってしまい申し訳ありません。これからホームページやLINE・関係団体などに周知していきたい。</p>
<p>・アンケートはどこにあるのか。</p>	<p>・今後、生涯学習センターや各公民館などに置く予定。</p>
<p>・生涯学習センターの在り方について生涯学習の中心機関であるということを決めきってしまっているのであれば、フォーラムを含め意見を聞いても意味がない。 これだけの方を集めてどういう方向性にもっていきたいのかが理解できない。本当にあり方を検討するのであれば、世代を超えていかないといけな い。あり方を含めての検討なのか、運営についての検討なのか、はっきりとしていただきたい。</p>	<p>・1回目は導入、2回目は理念について、3回目はコスト面や具体的な運営についてお話をさせていただく。6回目までに、今後指定管理を続けていくほうがよいのか、市の直営に戻すほうがよいのかについて、基本理念などをお読みいただいた上で議論いただき、提言書をおつくりいただく流れになっている。</p>
<p>・まちづくりに関して、生涯学習センターというものがどのように関連するかが見えてこない。懇話会がまちづくりに対してどのように必要なのか、存在していけばよいのかということ を自分自身も考えたい。</p>	



<p>・まちづくりは人づくりということだが、人づくりが先ではないか。小山市の市政に関心を持ってもらい、自主的に動ける人づくりをするのがまちづくりでは。防災や高齢者・子ども会など世代を超えた問題を包含しているのだと思う。</p>	<p>・小山市のまちづくりは、工場誘致などのハード面と比べると、文化的なソフト面は立ち遅れてしまっているのではないかと懸念している。本当のまちづくりというのは、住んでいる市民の方々が「住んでよかった、素晴らしいまちだ」と思えるようなものだと考えているので、生涯学習をとおして素晴らしいまちをつくっていきたい。</p>
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の声を聴く場が足りなかった。そこをもっと大切にしながら生涯学習センターの在り方を問い直していくような懇話会としたい。</li> <li>・5月21日の「これからの生涯学習を考えてみよう」については、非常に日程的に厳しいが、行うという方向であればたくさん周知していただきたい。アンケートについてはまだ日にちがあるので、しっかりとサンプルを集めて分析してもらいたい。</li> </ul> <p>また、5月21日はぜひ子どもたちや子育て中のお父さん・お母さん、障害のある方など、ダイバーシティ・次の世代ということを重視して幅広い方に参加してもらいたい。</p>	

◆質疑応答後、次回の日程(5/26 開催)についてご連絡し、閉会しました。

## 令和4年度第3回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

## 会議結果報告書

1. 日 時 令和4年5月26日(木) 14:30~16:15
2. 会 場 間々田市民交流センター(しらさぎ館) 研修室1
3. 出席委員 17名出席(1名欠席)
4. 懇話会

## ◆議事及び事務局説明事項

- (1) 報告事項「前回(第2回)の懇話会について」

前回の懇話会を踏まえ、本会設置の経緯について補足説明  
「5月21日開催市民フォーラム結果報告」  
動画を含むパワーポイント資料を説明  
「市民アンケート途中経過報告」  
5月25日時点で135件の回答あり

- (2) 論点整理3「生涯学習のマネジメントーガバメントとガバナンス」  
(白鷗大学 法学部 児玉 博昭 教授)

論点整理4「小山市中央生涯学習センターの運営の「これから」  
～【時間】と【協働による社会サービス】に着目して～」  
(宇都宮大学 地域デザイン科学部 石井 大一郎 准教授)

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。

委員からの主な意見等は次のとおりです。

## 【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
<p>・自分たちは指定管理を受けている NPO として、毎月経営会議や理事会、分科会をやっていて、他地域や市役所にも負けない気持ちでやっている。施設貸出システムも3、4年間言い続けているが、不具合が直らない。職員にはもう少し勉強してほしい。</p>	

<p>・間々田市民交流センターで指定管理を受けている。特に講座の企画・運営については、指定管理だけでは難しい現状があり、教育委員会や生涯学習課等の協力があるとよい。</p>	
<p>・前提として、条例では生涯学習センターに社会教育主事を常駐させるとあるのに、今までやってこなかったのが問題であり、それを、指定管理がためだから直営とするのは乱暴。</p> <p>・条例のことや、双方意見を出し合っているシステムの方向性等に時間を掛けて議論を行うべきであり、あと数回しかないこの懇話会で委員に判断させるのは難しい。</p>	<p>・条例について。生涯学習センター設立当初は社会教育主事を置くと明記していたが、平成19年度に指定管理制度に移った際に、その部分は削除されてしまっている。そのため、今現在は社会教育主事に関する記載はなく、さらには、生涯学習センターとしてどのような事業を行っていくのかについても大部分が削除されており、そこがまず大きな問題だったのだと認識している。</p> <p>・期間について。事務局側としては、施設管理と企画運営を分けて考え、企画運営部分については基本理念の期間に合わせていったん市側に5年間戻していただき、職員も勉強しながらより良い運営方法を探っていく期間としたいという考えを持っている。このことは次回提案の予定。</p>
<p>・先生方の講話を振り返って。条例上は貸館でしかないこと、職員のスキルアップが課題であること、仕組みを作っていく上での「協働」の在り方を再整備する必要があることが宿題となる。</p> <p>・特に再整備は6回の懇話会ではできないので、生涯学習センターの在り方の方向性、運営の基本的な在り方を再整備していくことを、市民の方たちと「協働」で考えていくような着地点までは行きたい。そうすればこの懇話会の後にも繋がっていくと思う。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員がスキルを上げていくのは当然だが、直営の時には専門性を持った職員は揃っていた。指定管理になったことで、その必要性もなくなっていったのが問題。今後どちらに転んでも、専門性を持った人の養成・雇用は必要。</li> <li>・ 論点整理から、「生涯学習は、コストではなく人材への投資と捉える」という所にとっても納得した。指定管理だとどうしても収入の見込める講座に偏りがちで、行政が直営でやっていく良さもある。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A 評価でもだめであるということと作らないようなシステムを皆で考えていった方が良いし、それには時間が掛かる。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の所の NPO では、指導主事もいるし、教職経験者、役所経験者等に入ってもらい、計画を作る。やり方を工夫すればできる。私は交渉役として役所にどんどん行き、間違っていることは間違っていると言う。</li> <li>・ 条例が変わったことも、情報として我々は分からないし、議会にしても報告会をずっとやっていない。</li> <li>・ 間違いや勘違いはあるのだから、市民と役所、議会と三位一体で改革してもらいたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理がだめなのではなく、それを使う側が悪いということ。指定管理を否定されたら私たちは黙っていないというのは伝えておきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理をはじめ行政サービスを民間に委託という方向性は、公的サービスの質の向上を目的としている。その評価軸がずれているから今でも A 評価。</li> <li>・ 公的サービスの質の向上にはどうすれば良いのか、どういう仕組み、体制を作っていくのかという議論が今後必要で、もっと</li> </ul>	

<p>若い人たちが入ってくるプラットフォームを作ってほしい。</p>	
<p>・私も出前講座を始めて、公民館の高齢者学級等に出ているが、それぞれ工夫をしながら活発に、受講生たちはいきいき活動している。要はピラミッド（基本理念P13）でいう2段目以上にどうやって上げていくか。現状から私なりにいくつか考えたものがある。次回のテーマとして今回は述べないが。</p>	
<p>・社会教育委員を長くやっており、今まで担当になった職員の方たちが社会教育主事等の色々な研修に出て学んでいるのは耳にしている。しかし、勉強したことが活かさないような所に異動というのも多いと聞く。</p> <p>・人事というのはいくぶんよく分らないが、研修して勉強してきた人を活かせる所へ配置してもらって、長く一緒にやっていきたいと思っている。</p>	
<p>・教育委員会で学んだことは、他の職場に行っても十分役に立った。役所は決めつけに見えるが、将来の子ども達を育てるという視点であちこち色々やっている。</p> <p>・社会教育主事の資格は全員取った方がよい。それくらい役に立つスキル。</p>	
<p>・対話の時間が短いのはその通りだが、「いつまで」「どれだけ」対話すれば良いのかもはっきりしてほしい。結論を先送りにする方便として、時間が足りない、もっと対話すべきというのではなく、まずは出来ることをしっかりやっていかなければ。</p>	

【その他】

- ・これから生涯学習センターをどのように立て直していくのかという在り方を議論していく場には、ぜひ若い方たちも入っていただいて、考えるプラットフォームを作ってもらいたい。

◆質疑応答後、次回の日程(6/10 開催)についてご連絡し、閉会しました。

## 令和4年度第4回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

## 会議結果報告書

1. 日 時 令和4年6月10日（金）14：00～15：30
2. 会 場 小山市立生涯学習センター ホール
3. 出席委員 17名出席（1名欠席）
4. 懇 話 会

## ◆議事及び事務局説明事項

## (1) 報告事項

- 1 「前回（第3回）の懇話会について」
- 2 「市民アンケート途中経過報告」

## (2) 議事及び事務局説明事項

- 1 小山市立生涯学習センターのこれからの<sup>ロードマップ</sup>未来予想図
- 2 令和5年度小山市立生涯学習センター事業実施計画（イメージ案）
- 3 運営形態別コスト比較
  - A) 運営形態による業務内容及び職員人員の比較イメージ図
  - B) Aに基づくコスト比較図
  - C) Bの積算内訳

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。

委員からの主な意見等は次のとおりです。

## 【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・ 条例を見直す場面で、懇話会の方々へオープンに情報発信をしながら行えればよいと思う。	・ 懇話会で決めていくのは難しいかもしれないが、見えるような形で検討を進めていきたいと考えている。
・ 館長が責任者ということだが、なぜ再任用なのか。現職が就くべきだと私は思っている。	・ この資料はあくまでも案であり、今現在でこうすると決まったものではないので、今後検討していく。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターの配置人数は常時3人なのか、3人をローテーションでまわしていくのか、常に何人配置なのか教えていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常駐3人であり、3人は必ずいていただく人数となっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの形態から新しい形態にするにあたり一番重要なのは、前の形態よりもどう変わってどういう部分を押し出していくのかということ。この重要な部分が今回出てきた。</li> <li>・今の指定管理と比べると総勢の人数が2名減になっていることや、今の生涯学習係が受け持っている業務をすべて持ってきてきちんとこなせるのかが心配である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・14名については延べ人数であるため、最低人数としては変わらない。むしろ他の業務が増えている分昼間の人数は今後の方が多い。</li> <li>・今までやってきたことは実績もありそれなりにやっていけるが、新しいことは、どんな風に進めていくのか、どのような分野を先に行うのかについて相談しながら進めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館・市民交流センターへの支援充実事業はとても期待している。ぜひ強化していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この部分については公民館からも研修会ができないか、スキルアップ・情報交換できる場がないかなど声が寄せられているため、ぜひ強化していきたいと考えている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今現在生涯学習系の業務は非常にボリュームがあるが、本当にこの人数の体制で大丈夫なのか。</li> <li>・駐車場の対策は、予算に盛り込まれているか、対応を考えているか。</li> <li>・公民館としてはパッケージや情報共有については大いに期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろ教えていただきながら実施していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターがこれから担わなくてはならない機能として5つ。</li> <li>・1つ目は市内の活動の状況把握。</li> <li>・2つ目はそれぞれの活動の特色を活かして、複数の活動、団体、担当部署のコラボ事業等の企画。</li> <li>・3つ目は生涯学習に関する情報の一元化と発信。</li> <li>・4つ目は他では開設できないような全市民対象の講座の企画。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つについて、これから取り入れていかなければならないことであり、積極的に取り入れていくべきことだと考えている。</li> <li>・人材育成については、まずは途切れずに生涯学習センター、生涯学習をまわし、巣立った後は他の課でも活躍していけるような人材育成を目指したい。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5つ目は生涯学習指導者の人材育成。</li> <li>・ これら5点について今の状況で民間委託は無理な部分が多いため、工夫しながら少しずつ改善を試みて、その後また一番よい方法を考えるのがベストな考え方である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下都賀地区の視聴覚ライブラリー協議会について、家庭教育などに関わっている団体に対して活用を働きかけたらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視聴覚ライブラリーについては新型コロナウイルス感染症で外に出られないときに機械を持っている学童の一部で積極的にご利用いただいたと聞いている。</li> <li>・ いろいろなところで利用していただけるよう啓発していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「市民の声や力を運営に反映させる仕組み」がある程度担保されているのであれば、市にしっかりとリーダーシップをとってもらいたい</li> <li>・ 生涯学習センターに市の職員が直営で入るのであれば、ロブレを中心としたまちづくりにも関わってくる。どうやってロブレに人が集まるのか、集まった人たちとどんな風にこの街を考えていくのかというのも生涯学習の1つ。</li> <li>・ 市民との対話の場をつくるのであれば、生涯学習課だけではなくて、他の課の職員も入って欲しい。そうすれば市全体で関与しなくてはいけない問題について、もっと大きな視点で議論できる可能性につながると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからはまちづくりと生涯学習は一緒に歩いていくべきなのではないかと考えているので、いずれは何か一緒にやっていきたい。</li> <li>・ 地域課題の解決などには各課の連携が欠かせない部分があると思われるので、少しずつではあるが取り組みを進めていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 親学習プログラムに関することや、地域学校協働活動に関すること、PTAに関することなどは、生涯学習センターを拠点として行うという考え方でよいか。</li> <li>・ 生涯学習センターは空き室が多いなというイメージがあるので、生涯学習センターをフル活用していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局については生涯学習センターに全員移ってくるので、生涯学習センターで行う。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育とは何なのか、実際何をしたらよいかというところからなかなか進めずにいた。</li> <li>・ただ話し合いをしているだけではなく、動いて何かをしないと分からないのことから交流会を開催していたが、このような具体的な話になってくると、社会教育委員としての役割、活動の仕方も少し変わってくるのではないかと感じた。</li> <li>・社会教育をこのような中に入れていただければ、小山のために、市民の皆さんと一緒にできることがもっと明確になる気がする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・野木町の文化会館は財団に委託していたが数年前に直営に変えた。そのとき、まずは職員が町をあげて行っていることを知り、会議なども全部知らせながら行うようにお願いをした。</li> <li>・懇話会を設置して市全体の大きな問題として検討しているが、市の他の部局の方はどこまで分かっているのか。</li> <li>・結果だけではなく、このような意見が市民から出ているということを何らかの形で伝えていただけると、市全体の勉強になると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部課長会議で大きな話題になっており、他の部局も非常に親身になってよい意見をたくさん出してもらえる状況となっている。</li> <li>・このような大きな事業は全庁あげて行わないといけないのに、教育委員会の生涯学習課という1つの課が担当して、他の部署は任せると進めていたことが間違いであり反省点である。</li> <li>・この懇話会の結果などを他の部局や議会にきちんと説明して理解していただきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実質的に直営で行った場合の細かい話まで出ている。これはもうそのまま行くということだと思うので、賛成・反対ではなくどんどん進めていくとよいと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横のつながりをより強くして、生涯学習につながるものはすべてここに相談すれば答えが返ってくるというようなところがあるとよいなと思っている。</li> </ul>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てに必要なのは学校と家庭と地域のトライアングルであるが、小山市で生涯学習が本当に浸透してくるのであれば、地域で子育てをするということが浸透していけばよいと思う。</li> <li>・人権教育について、発信力がないのが小山市の現状である。生涯学習が小山市の教育の中心になるのであれば、人権教育だけでなく小山市の教育力を取りまとめていけるような組織がつかれるとよいと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習センターは現在公民館運営審議会の構成メンバーではないが、みんなで携わる生涯学習としてぜひ生涯学習センターを公民館運営審議会に加えていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に検討していきます。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ学んでああよかったというだけではなく、自ら学びを見つけにいてその課題を読み解いて、新たに企画する側に立って発信するという取り組みは、市民の人材育成になる。自立した、成長した市民を多く生み出していくことは小山市にとっても市民協働につながるし、これから生涯学習センターを運営していく上での大きな力になると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料3については懇話会や市民フォーラム、市民アンケートの内容を多く取り込んでいる。ニーズが入ると皆さんにも届くのだと実感している。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ子どもたちや若者が先生になれるような講座をつくっていただきたい。お互いに世代を超えて学び合える環境をつくっていくことが、まさに生涯学習センターの役割だと思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野塚記念館について、今後生涯学習センターの直にするのか、今まで通り中央公民館の傘下にするのか、教えていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小野塚記念館の来年度以降の管理については、今のところはまだ変えるような話が出ていないので、今後も継続して中央公民館にくっついた形になると思われる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの教育に関していろいろと力になってくれる地域の方々がいるが、学校という小さい・狭い範囲で活動されている人たちをコーディネートする機会や、子どもたちが地域に出て地域の方々と一緒に活動するような機会をどうするかについての情報交換の場を生涯学習センターが提供できないか。</li> <li>・子どもが生き生きとした大人たちを見て、自分もこんな大人になりたいという未来を描けるような小山市になるために、学校を巻き込んだ取り組みについて、小山市は何か考えがあるか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と学校の連携については、学校側は一生懸命努力している。地域がもっと学校側に寄り添っていかないと、学校と地域の連携というのはきちんと整っていかないとと思う。</li> <li>・地域の教育力や地域力について、行政側が生涯学習として必要なのだということをきちんと発信していただきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動というのは、別の言い方でコミュニティスクール、学校とともにある地域づくり、地域とともにある学校づくりであるが、こうしたことをここに謳ったことはとても意味がある。</li> <li>・地域の方でいろいろな資格・得意なことをもった方との橋渡し・連携を地域連携教員や学校だけに任せるのではなく、生涯学習の一環として行うのがよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールについて、小山市は以前から地域の教育力を学校の中に取り入れて、全体で子どもたちを育てていこうという取り組みはあった。</li> <li>・実際に間々田地区では、公民館で活動されている方たちが積極的に学校に協力を申し出てくださり、多くの地域の先生が選択授業に来てくださったという事例がある。</li> <li>・地域連携教員や選択教科の教員など、いろいろな角度から地域の力を生涯学習の一環として学校へ取り込む動きはしていたが、残念ながら</li> </ul>

	<p>大きな流れになるまでは育ておらず、各地域でそれぞれが頑張っているのが現状。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の力を取り込むことは大きな課題だと思うので、努力していきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・羽川小学校では学校と地域の連携について自治会長なども考えている。実際今年も行っている。</li> <li>・地域の方々がやる気がないからできないのであって、もっとそういう部分を刺激してやるべきではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理がだめだとか、小山市は市民力がないのだとか、間違っって伝わってしまう可能性がある。情報の出し方は、市民力が育ってきている過程の中で協働をより強化し一気にブレイクスルーしていくその段階まで来ているのだというような見せ方にすることが大事。</li> <li>・資料だけが出歩くと、民間に任せていて、だめだから戻しましたと見えかねない。なので、最初の事業運営方針のところに「協働」や「市民の力を活かしながら」といった具体的な言葉を入れ込んでいくことが姿勢としてとても大事である。</li> </ul>	
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回事務局が用意した資料の方向性で提言書（案）を作成し、第5回懇話会で諮るということになった。</li> </ul> <p>&lt;会長より&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の意見交換を振り返って、この懇話会で問われているのは、小山市の生涯学習がどうあるべきなのかというビジョンを描き切る力があるのかどうか、描く覚悟があるのかどうかということであったように思う。</li> <li>・今の段階はあくまでも計画であり、紙に書いたものでしかない。これを実体化していくときに、どういう風にしていくのかがとても重要であり、懇話会の皆さんが1つのチームになって今後の方向性を実現していけるものになればよいと思う。</li> </ul>	

◆質疑応答後、次回の日程(6/30 開催)についてご連絡し、閉会しました。

## 令和4年度第5回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

## 会議結果報告書

1. 日 時 令和4年6月30日（木）14:00～15:30
2. 会 場 小山市立文化センター 小ホール
3. 出席委員 14名出席（4名欠席）
4. 懇 話 会

## ◆議事及び事務局説明事項

- (1) 報告事項
  - ① 「前回（第4回）の懇話会について」
  - ② 「市民アンケート結果について」
- (2) 議事及び事務局説明事項
  - ① 提言書（案）について
  - ② 意見交換

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。  
委員からの主な意見等は次のとおりです。

## 【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
・提言書（案）の文字について、「子供」の「供」という字は、ひらがなで「子ども」としていただきたい。	・そのようにいたします。
・提言書（案）P3「社会教育主事及び社会教育士の配置に関すること」について、「社会教育士（特に教育委員会職員でなくても、行政職員でなくても、必要条件を満たせばだれでも称することができる）」のうち、「必要条件」というのはどういうことを指すのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育士の資格は令和2年度に文科省によって創設されたもの。</li> <li>・社会教育主事の資格をとるためには、大学や研修等で必要単位数を取得後、実務経験を3年以上経た上で教育委員会が発令する必要がある。そのため、社会教育主事は行政職員かつ教育委員会職員でないと発令されないものである。</li> <li>・社会教育士は大学や研修等で必要</li> </ul>

	<p>単位数を取得すれば、行政職員でなくても、民間企業や NPO 団体などが名乗ることができるようになったものである。</p>
<p>・提言書（案）P4「人材育成」のうち、「自立し成長した市民となるための」という部分はどのように捉えればよいか。</p> <p>・「自立し成長した市民になる」というのはどのような市民になっていけば望ましいのか、そうでなければいけないのか。</p>	<p>・前回の懇話会で、「自主企画講座を市民の皆様が体験することで成長していくことを大変期待しております」との発言をいただいたことを踏まえたもの。</p> <p>・事務局の意向としては、自主企画ができて、自分たちでいろいろな講座ができるようになるとよいなという思いがあったが、もう少し分かりやすい表現としたい。</p>
<p>・「自立し成長した市民」について、前回発言した者だが、「ただ学んでああよかっただけではなくて、自ら学びを見つけにいてその課題を読み解き、新たに企画する側に立って発信する」という取り組みが素晴らしいという意味での発言だった。</p> <p>・「自立した、成長した市民を多く生み出していくことは小山市にとっても市民協働につながるし、これから生涯学習センターを運営していく上での大きな力になると思う」という意味あいで発言した。</p>	<p>・いただいたご意見を汲んで、事務局で手直しをしていきたい。</p>
<p>・この提言書は、これからの5年間で土台をつくっていくというもので、市が生涯学習の全体を把握した上で行うということだが、この5年間で生涯学習センターに生涯学習係を持っていくというという、既にそのような方向性ということではよろしいか。</p> <p>・この方向性で動いていくための経費の件などいろいろな関係でどうかと思うところがある。利用者としてはもう少し余裕のあった運営ができるとよいなと思っている</p>	<p>・前回の懇話会で令和5年度からの5年間については生涯学習系の全員が生涯学習センターへ行き運営をしていきたいというご説明をし、それに対して了承をいただいたことからこちらの提言書につながったと考えている。</p>

<p>が、このまま進めるということであれば、市民のための講座内容となるようにしていただきたい。</p>	
<p>・進捗状況やコスト、施設の稼働率などについて検証するための検証委員会のような機関を毎年設けていただきたい。</p>	<p>・検証機関については、提言書（案）の P3 に「運営委員会を設置すること」と記載しており、今後は条例改正を行った上で、生涯学習センター運営委員会という形で設置する予定である。この運営委員会は、今後の生涯学習センターのいろいろな事業等について検証していただき、ご意見をいただくものである。</p> <p>・提言書をいただいた後、12月議会に上程をする予定。承認をいただければ、今年度3月までに運営委員会メンバーの選出依頼をし、来年度4月からご意見をいただきながら生涯学習センターの運営をしていきたいと考えている。</p> <p>・運営委員会については、懇話会のメンバーの方にもぜひ入っていただき、継続してご意見をいただきたいと考えている。また、その他、若い方にもメンバーに入っていただきたいと考えている。</p>
<p>・運営委員会は、実際どのように運営するかについて検討するものなので、経験や知識のある方が入る必要があると思う。</p> <p>・懇話会は学識者や法律家などいろいろな専門性を持った方が入るとよいと思う。</p>	<p>・来年度の懇話会では、令和5年度の生涯学習センターがこのようなになっているというご報告をさせていただきたいと考えている。</p> <p>・運営委員会については、いろいろな検証などをしていきたいと考えている。</p> <p>・フォーラムやアンケートについても、今後継続していきたい。</p>
<p>・懇話会についてなぜ任期が2年なのかと</p>	<p>・おっしゃるとおりです。</p>



<p>不思議に思っていたが、要は少なくとも1年半くらいはお目付け役として必要とされるという考え方でよろしいか。</p>	
<p>・提言書（案）の付帯意見の位置づけについて。生涯学習センターでそれが実現できるかどうかをチェックする視点として捉える必要があるのでは。</p> <p>・提言書（案）P5④「生涯学習センターが子供達の学びや成長を支える地域の取組を支援することを望む」について。→主目的は子どもの育ちとし、関わる大人のつながりづくりから地域づくりに、という方向性から「子どもの育ちを軸に据えた市民の絆づくりの推進を望む」とし、その下に箇条書きで「地域全体で子どもの学びや育ちを支えるための体制づくり」、「地域住民の子どもの教育に関する当事者意識の高揚」、「市内の小・中・義務教育学校、高等学校、高等教育機関との連携強化」「市内の地域学校協働活動の情報共有」がくると良いのでは。</p> <p>また、前回の懇話会で家庭教育支援について重要なキーワードが挙がっていたことから、「家庭教育支援の充実」「親の育ちとつながりづくりを応援する学びの機会の充実」「親子を孤立させない取組の推進」「支援のネットワークを広げる体制づくり」「子どもを核とした市民相互信頼の構築」等も入れると良いのでは。</p> <p>・提言書 P5⑤「人生100年時代を見据え、自らの人生を設計する過程において、全ての人の生涯にわたって活躍するために必要な学びの場となり充実することを望む。」について。</p> <p>→少し長いため、国の第三期教育基本計画のキーワードも用い、「共生社会の実現に向けた生涯学習の充実を望む。」という表現が</p>	

良いのでは。また、その下の箇条書きは、それぞれ、

ア)「人生100年時代を見据えた生涯学習の展開」→「全ての人が多様なライフステージに応じて、学ぶ幸せを実感できる生涯学習の推進」

イ)「多様な人が共に生き生きと学べる学習機会の充実」→「障がい者の生涯学習の推進」、「外国人住民を対象とした学びの支援と「地域住民」としてコミュニティに積極的に参加できる豊かな地域づくりの推進」等の表現にすると良いのでは。

・提言書(案)P4③「子供たちや若者が事業計画の立案から参画し、多彩な事業で活躍できる仕組みが作られることを望む。」について。

→大きな目的・ビジョンがみえないため、「次代の小山市を創造する子ども・若者の自己形成のための支援を望む」とし、その下にP4の言葉を加えていくとよいのでは。

・上記提案について。学校教育の先生方が受け入れることのできるような具体的な施策をもとに言わないと、現場の先生方は困ってしまうのでは。小山市に実際に存在している団体や、市の支援体制を把握し、具体的な案をつくった上で文言をつくっていくと良いのでは。

・より現場の子どもたちに届けていくということから、今後運営委員会なり協議会なりに継続的に託される仕事になると思う。市役所が建設的に提案やリーダーシップをとって、現在の具体的な問題点や課題などを踏まえて議論ができると良い。

(鈴木正俊委員)

・教育委員会部局だけではなく、他部局との連携、市民が中心になって活動している団体との連携等視野に入れて、具体的に考えていければと思う。

<p>・今後5年間の進め方について。1年ずつ運営委員会等で進捗が管理されるのか、5年の中で「1年目はこういうことをする」というように具体的なことを検討するのか。</p>	<p>・基本理念は5年間で計画している。今後については、長期のものと年次計画等と組み合わせてつくっていったらと考えている。</p>
<p>・付帯意見1～6それぞれの項目について、もう少し統一できると良いのでは。具体的な部分が挙がっているところとそうでないところについても、もう少し調和をとった文章になると良い。</p>	<p>・そのように検討していきたい。</p>
<p>・市長、教育長への提言ではあるが、この提言書を基に実際は活動するのだから、一つ一つの言葉をかみ砕いて、誰が見ても分かるような形でまとめる必要があるのでは。</p>	<p>・言葉についてもう一度全部見直し、誰にでも見やすく、分かりやすい表現になるよう検討していく。</p>
<p>・今まで出てきた問題に対しての目標がある程度書かれているのが今回の提言書だと思うが、今後はそれを基にどのようにアクションしていくか等の具体案を進めていくことが、市民にとってはより分かりやすい方向性になると思う。</p>	<p>・委員の皆さんと一緒につくった提言書は、生涯学習として目指していくべきものだとして強く感じている。全てを4月から一斉に行うのは難しいが、少しずつ一つ一つ手掛けていったらと考えている。</p>
<p>・この懇話会発足にあたっての一番の問題は、生涯学習センターが委託の場合と直営の場合のコストの部分が挙がり、議会で議決されなかったことだと思うのだが、このことについて提言がなくて良いのだろうか。</p> <p>・私たちは資料があるので分かるが、一番の課題だったものについての回答が提言書に入っていないで大丈夫なのか。</p>	<p>・提言書(案) P2に「今後の小山市の状況に応じた運営形態を探るため、令和5年度からまずは5年間で部分委託も導入しながら生涯学習センターを市職員による直営によって運営するとともに、事業計画を職員が直接担い、試行期間として実践する期間とすることが適当である。」と記載をされており、前回の懇話会でコスト面についても説明をさせていただいた。</p> <p>・具体的な数字は提言書には入れないものと考えているので、提言書(案) P2の「時流に合わせた理念とコストのバランス」といった部分で意識して表現している。</p>

<p>・コストについて、懇話会に入っている市議会議員の3人の方たちも納得したのだからそれでよいと思う。</p>	
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 条例については今後事務局一任とし、今回事務局が説明した方向性でとりまとめて議会で判断いただくということで委員の皆様の了承を得た。</li><li>・ 提言書（案）P6「おわりに」については、陣内会長が委員の皆様の代理として執筆することになった。</li><li>・ 次回の懇話会では、今回の意見を踏まえた上での最終案（確定版）を事務局が提示し、委員の皆様に最終確認していただき、確定としたい。</li></ul>	

◆次回の日程(7/11 開催)についてご連絡し、閉会しました。

## 令和4年度第6回小山市立生涯学習センターの連携等に関する運営懇話会

## 会議結果報告書

1. 日 時 令和4年7月11日(月) 10:00~11:00
2. 会 場 小山市立文化センター 小ホール
3. 出席委員 18名出席
4. 懇話会

## ◆議事及び事務局説明事項

- (1) 報告事項
  - ① 「前回(第5回)の懇話会について」
- (2) 議事及び事務局説明事項
  - ① 提言書(案)について
  - ② 意見交換
- (3) ① 市民アンケート結果について

上記について、報告及び説明を行い、ご審議をいただきました。  
委員からの主な意見等は次のとおりです。

## 【委員の主な意見等】

質問・意見等	事務局回答
<p>・提言書(案)のP2の2行目、「今後の小山市の状況に応じた運営形態を探るため」について、目的の部分がしっくりこない。 「今後の小山市の状況に応じた生涯学習センターの機能の充実を図り、それに応じた運営形態を探るため」などとした方がよいのでは。先に大きな目的をもってきて、そのために運営形態を探るとしたほうがよいと思った。</p>	<p>・参考意見とさせていただきたい。</p>
<p>・今まで委員から出た意見を最大限に活かしながら、小山市の将来の生涯学習の在り方が描かれた素晴らしい提言書にまとめていただいた。短期間でまとめた事務局に敬</p>	

<p>意と感謝を申し上げたい。</p> <p>ただ、付帯意見の内容を実際に具現化していくことは並大抵のことではないと思う。生涯学習課の皆さんの熱意と、市民の声を真摯に聴こうとする態度があれば、必ずよい方向に発展するだろうと確信し期待している。ぜひ自信を持って頑張ってください。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この短期間でここまでまとめられた。事務局に激励の言葉をかけたい。また、委員の皆さんが大変活発に協議した成果であると思う。</li> <li>・今日が最後の懇話会ということだが、時間的な制約もあるので、今日出された意見も含め提言書については会長と事務局で進めていただき、最終的には会長一任でお願いしたい。</li> </ul>	<p>【会長より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言書（案）については、今回出された意見も参考に手直しを行い、会長・事務局一任としたいがよいかな。</li> </ul> <p>⇒異議なしとの意見。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民アンケートについて。ハード面で、施設の年数が経過していることによる様々な問題がある。また、駐車場の問題があり、駐車料金を無料にしてほしい、割引してほしいなどの意見もある。</li> </ul> <p>これはずっと継続している課題であるので、検討をしておかなければならないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード面については、今までのアンケートでも出ていた問題であるので、改めて担当課との話し合いや予算の検討などしていきたい。</li> </ul>
<p>【事務局より諸連絡】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提言書については、今回出た意見を参考に整えて、7月14日（木）16：45～陣内会長と宮内委員から小山市長・教育長に提出予定である。他の委員も同席希望であれば事務局までご連絡をいただきたい。</li> <li>・懇話会は全6回を想定しており、本日の開催で今年度の懇話会は一旦終了となる。今後については運営委員会の設置に向けた準備を進めていきたい。</li> </ul>	

## ◆閉会

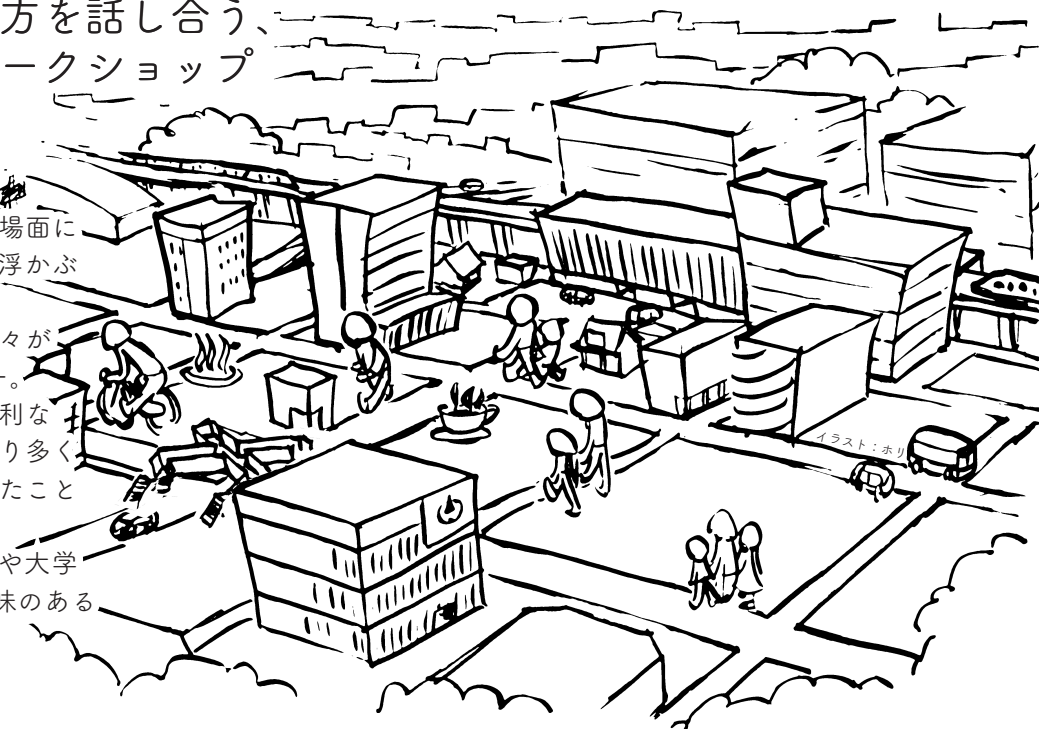
# これからの 生涯学習センター を考えてみよう！

生涯学習センターのあり方を話し合う、  
オープンフォーラム&ワークショップ  
を開催します。

生涯学習センターをご存知ですか？  
生涯にわたる、様々な学びをそれぞれの場面に  
応じて応援する施設というイメージが浮かぶ  
でしょうか。

平成6年に開設され、これまで多くの人々が  
利用してきた小山市立生涯学習センター。  
このフォーラムは、小山駅に最寄りの便利な  
立地を生かして、生涯学習センターのより多く  
の可能性を皆さんと共有したい、そうしたこと  
を話し合う公開型の催しです。

学習や教育に関心のある方も、中高生や大学  
生、社会人の皆さんも、まちづくりに興味のある  
皆さんも、ぜひ来てみてください。



2022年

5月21日(土)

開場 12:30 (展示をご覧ください)

開会 13:30 (16:30終了予定)

小山駅西口・ロブレ6階

小山市立生涯学習センター・ホール

内容 ・キックオフ宣言

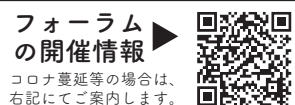
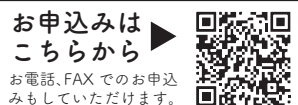
・お話し「小山市の生涯学習の未来に  
どんなタネを蒔きたいですか？」

・テーブルワーク  
・まとめの車座トーク

参加費 無料

定員 30名

対象 小山市在住・在勤・在学の方、生涯学習センター  
ご利用の方であれば、どなたでも



コーディネータ 陣内雄次さん

1956年佐賀県生まれ。宇都宮大学名誉教授、宇都宮共和  
大学教授。

宇都宮まちづくり市民工房・前理事長。アメリカ、カナダの  
大学および大学院にて都市計画・地域計画を専攻。帰国後、  
東京、金沢の民間シンクタンクにて都市計画、地域計画、観光  
計画等の業務に従事。「まちづくり学習」をキーワードに、学  
校と地域、子どもと大人の連携によるコミュニティづくりの  
新しいあり方を研究・実践してこられた。  
栃木県教育委員、小山市立生涯学習センターの連携等に関す  
る運営懇話会会長。

関連資料の展示  
を行います。

当日は会場内  
(ラウンジ側)に  
小山市立生涯学習センターの成り立ち  
等を示す資料展示を行います。  
早めに会場にお越しください！

昔の資料や写真をお持ちの方は、  
当日、ぜひ会場に持参いただいて、  
併せての展示にご提供ください。

展示にお借りした資料類はフォーラム終了時にお返しいたします。

※新型コロナウイルス感染防止に努めて開催します。  
※申込み多数の場合は抽選といたします。

# 市民オープンフォーラム 「これからの生涯学習 センターを考えてみよう」

## 5/21(土)開催 実施報告

### 開催状況

日時:令和4年5月21日(土)  
13時半~16時半

会場:小山市立生涯学習  
センター ホール

参加人数:27名

※内、小山高校1名、小山西高校  
3名、白鷗大学2名参加





## 会場インタビュー・キックオフ宣言

小山西高等学校JRC部の皆さん、白鷗大学の皆さん



## 講話「あなたは、小山市の生涯学習の未来に、 どんな種を蒔きたいですか」・アイスブレイク



# 第1ワーク 「年代別の私の“学び”」

(学びたい事、学びたかった事)

## ワークのねらい

学ぶことに焦点をあて、人生の様々な段階で、多様に学びがあることに気づく

### ワーク①

長い生涯のそれぞれに、気づきや学びがあるかと思います。このワークでは、さまざまな年代（年齢）ごとに、あなたが学んでみたい事、学んでみたかった事を書いてください。（未来の事は想像で書いてください）

このシートは下書き用です。班の皆の意見を集めて、1枚の模造紙にまとめてください。  
（具体的に書いてください。マニアックな内容でも構いません）

例：楽しい仕事の見つけかた

10代

20代

例：安全な資産管理のしかた

50代

60代

例：手軽な動画配信のしかた

70代

## 第1ワーク 「年代別の私の“学び”」 (学びたい事、学びたかった事)



## 第1ワーク 「年代別の私の“学び”」 (学びたい事、学びたかった事)

年代毎と言うことで、それぞれの参加者の年齢に近いところから順に穴を埋めるように、書き込みが広がっていきました。

班の中でも異年齢の人たちがお互いを補いあいながら、昔のことを思い出したり、未来のことを想像したりして、生涯における学びを「見える化」していきました。

## 第2ワーク 「あなたが行きたくなるような生涯 学習センターの1年間を考える」

### ワークのねらい

生涯学習センターという施設の1年間を、自分の事として考え、様々な顔と役割を持つことに気づく

## 第2ワーク 「あなたが行きたくなるような生涯 学習センターの1年間を考える」



## 第2ワーク 「あなたが行きたくなるような生涯学習センターの1年間を考える」

それぞれの班に、自分達の想い描くような「マイ生涯学習センター」を作ってもらいました。

班同士が競い合う、といった図式の中で、センターで自分たち自身が、やりたいこと、体験したいことを出し合いながらも、一方で、計画がより魅力的に映るよう、磨き込む姿が見られました。

## 第2ワーク 「あなたが行きたくなるような生涯学習センターの1年間を考える」

〈行きたくなるマイ生涯学習センター〉

	A班	B班	C班	D班	E班
①	1年間を通じた金融学習	小山市の特色にあわせて講座	これからの新生活のための学び	SDGsに向けた17の実践と学ぶ(地域性)	楽しく市民が集える生涯学習まつりのような運営(イベント)
②	安心安全な地域文化 + 地域文化が学べる	ポラリテアの始め方、楽しみ方	地域の自然である思いについて学べる多様に	防災・& CCUの安全が学べる	生活に根付いた学びが、13人な場面やテーマで学べる

## 全体ワーク 「生涯学習センターとまちづくりの10年」で今日の話振り返る

### ワークのねらい

時間とともに変化する地域を想像しながら、生涯学習センターとまちの10年後の未来の姿を考え、生涯学習センターのあり方を考える

## 全体ワーク 「生涯学習センターとまちづくりの10年」で今日の話振り返る

小山市に空みつつけたい...と思える学びが得られる

2028年	2030年	2032年	
VAL小山 50周年	子どもが118世帯 が、必要とする学び が得られ、互いに 支けあれる場所に	119人が集まることで 健康増進やフレイル 予防の役に立つのでは?	新幹線 50周年
小山高校 開校110周年	「生涯学習センター」 という建物の(ふたは?) あり方について検討は よいのでは? (これまでの運営がうまくい くか? 課題は何か?) と発信するよ!	小山市が推進したい テーマは、学びの場 場として整備しゆく	もと講堂のま るで1まい (1階)
大人を本気に させる子ども 達が活躍		「生涯学習が」 もと盛んに (7/12に課題を)	
		社会的弱者の 人たちがどうあるか どうあがるか 開けよう	

## 全体ワーク 「生涯学習センターとまちづくりの10年」で今日の話振り返る」



## 全体ワーク 「生涯学習センターとまちづくりの10年」で今日の話振り返る」

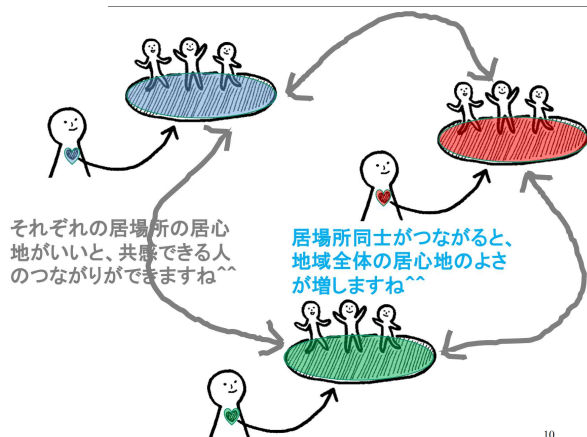
2つのグループワークを通して「学ぶ」ことを改めて問い、また生涯学習センターと言う施設のことに思いを馳せることで、生涯学習センターの価値を改めて感じていただけたことと思います。

その上での10年、しかも施設としてのセンターだけでなく、街のつながり、すなわち人々のそれぞれの人生と関わる生涯学習センターのあり方を、短い時間でしたが考察いただくことが出来ました。

## ふりかえり 陣内先生 「幸せなまちとその居場所づくり」



## ふりかえり 陣内先生 「幸せなまちとその居場所づくり」



みんなが「まち」に関心を持ち、  
(できる範囲でよいので)  
まちに関わることが理想。

なぜなら、「まち」はみんなの共有財産だから。

だからこそ、  
本日のような対話と気づきの場が重要。



	A班	B班	C班	D班	E班	
10代	<p>語学習得(英語) 落ち込みから抜け出す法 効率の良い学習の仕方 お酒の飲み方 お酒の席のマナー 失敗しても良いまずやってみる</p>	<p>化学 自分に合った仕事の見つけ方 合唱</p>	<p>なぜ勉強するの? 自分の好きなことものは? 充実した大学生活のおくり方 (両学長リベラルアーツ) みたいなお金の大学講座 ディズニーリゾートの楽しみ方 パソコンの使い方 1人暮らしのポイント 敬語の正しい使い方 マナー講座 自分の短所・長所を見つける 自分とは、何であるか 恋愛学講座</p>	<p>自動車の運転の仕方 小学理科での機械的な道具作りの楽しさ 選挙の大切さ 高校までの勉強とは異なる社会をみる目を学びはじめる。</p>	<p>学ぶ楽しさをもっと知りたかった 学ぶ楽しさを知った 情報モラルについて 異性と気軽に話す方法 お金の貯め方 仕事の探し方 日常的な英会話 数学・化学物理を楽しく学びたかった 交通機関の使い方 選挙について</p>	10代
20代	<p>マルチタスクをこなす方法 お金の運用 セルフプロデュース お金の使い方 資産について ママ友との付き合い方 建築関係の専門の勉強 地域との付き合い方</p>	<p>化学分析 仕事に役立つ勉強 仕事</p>	<p>プラモデルの楽しみ方 絵の描き方 副業について 一人暮らし向け料理講座 就活と大学生活の両立法 人付き合いで大切なこと 一眼レフ講座 仕事・社会に必要なこと求められること 仕事とプライベートの両立 社会に出て働くときの常識について JAZZSax</p>	<p>学生運動とざ折 お酒の飲み方 一生続ける仕事を見つけるしそれに向けて学ぶ</p>	<p>人間関係 世界情勢 対話の大切さを学んだ 医療 貯蓄 世界中に素敵な人がいて素敵な場所がある 失敗しない酒ののみ方 年金 仕事 文化が違くと“イヤなコト”も違うカルチャーショックの体験</p>	20代
30代	<p>セカンドキャリアの準備 子育てについて 健康について 新たな分野の学び 生活いろいろ整理法 体づくり 資産運用 仕事だけでなく家庭を見て仕事する。 お金のしくみについて</p>	<p>子育てに役立つ勉強 組織</p>	<p>婚活のすすめ 語学力(英語)強化 結婚について 部下への接し方 イクメンになるために 家族について 年金について 保険について 子育てについて</p>	<p>熱気球のパイロット ピアノ奏法の新しい修行 自己啓発 ボランティア 実践より深く学ぶ</p>	<p>社会的マナー 家族とのコミュニケーションの取り方を学びたかった 人間関係のむづかしさを知った 趣味 子育て ネットワーク地域</p>	30代

ワーク記録① 年代別の私の“学び”（学びたい事、学びたかった事）

資料3

	A班	B班	C班	D班	E班	
40代	すてきなインテリアコーディネーター 断捨離 加齢について 部下育成について	今後の人生に役立つ勉強 他人の考之方	アメリカの社会歴史 反抗期の子供との上手な使い方 健康管理	人の動かし方 会社の経営法 他の芸事も学ぶ 縁の下労働の取り組み	ブロークンでない英語 英会話 介護 太らない方法 子育てについて学び合う場 子どもの活動を通して子ども達に学んだ(まちづくり)。 家事片づけの方法を学びたかった	40代
50代	投資 夫婦仲良する方法 専門磨く 子供の巣立ち後の生活楽しみ方 老後の生き方について アンチエイジング	熱中症対策 子供の自立に役立つ勉強 仕事	学びなおし 健康的な食事 家庭菜園のはじめ方	認知症について勉強す 音楽道まっしぐら 地域での仲間づくり 一生続ける自分の学びを一つにしている まちづくの方法 地域の歴史	経済について勉強したい IT スキル 平和な世界に生きられるために必要なことを学び続けたい 生きがい 終活	50代
60代	お金のかからない楽しみ方 セカンドステージの準備 自分より先輩の生き方 健康について	教育訓練技法 今後の人生に役立つ勉強 歌（イタリア歌曲）	アフガニスタンの社会歴史 お金の節約 退職後の暮らし方について 年金の上手な使い方 退職後どんなくらし？	筋力トレーニングにつりとジムに行く 地域を学ぶ オリジナルな音楽作り 健康維持のためのストレッチ体操	定年退職後の生活について 農業 音楽をもう一度学びたいやりたい 資産 哲学 再チャレンジ 友達づくり 免許返納について	60代
70代	人生のしまい方 健康増進 豊かな生活 人生の終わりに 人生を振り返って	短歌作成 健康 俳句作成 書道 作文 絵画作成 子供に迷惑をかけない行き方	70代からでもたのしめるカラオケ講座 料理パン作り ヒマのつぶし方	同じ趣味のグループ化ひとりだけでなく 体力低下に向けて運動教室に行く 自分のアイデンティティを振りかえる	歴史(国、地域) 初チャレンジ ダンスを習いたい 海外暮らしの方法	70代

ワーク記録① 年代別の私の“学び”（学びたい事、学びたかった事）

資料3

	A班	B班	C班	D班	E班	
80代	資産の整理 世界の音楽の歴史 ご近所との助け合い 恋愛小説のよみ方 若々しく生きる	健康 ピンピンコロリ	生活モチベーションタ方法	認知予防の為にサークルに行きたい ボケ防止のための活動継続 有るがままに	趣味 DJ(テクノミュージック) 手仕事(機織り)	80代
90代	終活 いろいろな神さまについて まだ生きるのか?	ピンピンコロリ	若い人達にめんどうをかけない方法		伝え方 人生について 人生↑↓全般	90代
100歳～	ぴんぴんころり 静かに終わる	ピンピンコロリ	天国への道すじ 人生でよかったこと振り返る 自分の最後		生きがいの見つけ方 女遊び	100歳～

ワーク記録②「あなたが行きたくなるような生涯学習センターの1年間を考える」

資料3

	A班	B班	C班	D班	E班	
テーマ	①安心安全な地域 ②地域に根ざした文化		思川の自然・社会／産業／防災		楽、集、市民、生涯学習まつり、イベント	テーマ
4月	金融① 消費生活・衛生講座 よい地域づくり交流会 美術・音楽・工芸講座	小山の春の発見 野外見学会（春） コウノトリ 思川桜 セグロセキレイ 園芸農芸講座 子育て孫育て講座	新生活講座 タイムマネジメント講座 お金を正しく使おう講座(クレカレポートの書き方 礼儀マナー講座 福祉のまちづくり交流会 ご近所づきあい講座	大人の市内めぐり桜見 講座 SDGs 市の実践各項目と工夫（毎月内容を替えて） 防災くらしの安心講座	歳時記 行事 料理 親子お弁当作り講座	4月
5月	酒 つまみ 年金 保険	小山の花の発見 和菓子の知識	ゴールデンウィークの楽しみ方 5月病に負けない 両親に感謝をつたえる 健康介護予防講座	大人から子どもまでこれからを学ぶ 遭遇のTPO別、数ヶ月に渡って ICT講座	五月節句 かしわ餅を作ろう!! ボランティアのはじめ方講座 ボランティアの広め方講座 ボランティアの楽しみ方講座 子育て・孫育て講座	5月
6月	防災・くらしの安心講座 避難訓練コンサート 資産 経営	小山の水辺の発見 講座講師の交流会 ボランティアのはじめ方講座 ボランティアの楽しみ方講座	恋愛学講座(異性と上手な付き合い方) 雨の日をたのしむ講座	ファイナンシャルプランニング 市の共催にする政策にまで高められたら		6月
7月	防災クッキング 農家さんとコラボ YouTube 金融②	夏の甲子園の応援 熱中症対策 野外見学会（夏）	子ども向けのふれ合いイベント 蚊の対処法 虫の駆除方法 生涯学習まつり 大学の定期テスト効略法!	祇園祭を学ぶ、神事と歴史	七夕 川に安全に親しむ	7月
8月		小山の祭りの発見 自由研究 お寺	虫とのふれあい 夏野菜を使った料理教室 小山の花火大会について 夏休みの宿題のすすめ方	世界の教育の理解	戦争を考える朗読会 自由研究サポート 終戦のつどい 平和学習	8月
9月		防災くらしの安心講座 防災 台風対策	災害時の避難の仕方について 防災くらしの安心講座 防災講座	わが町地理面歴史面	防災・くらしの安心講座	9月
10月	新酒の試飲 金融③	各地での体育祭 野外見学（秋） 市内工場見学	読書のすすめ 秋の味覚、旬の料理 音楽について 美術について 体を動かすトレーニング 市民が企画する展覧会 市民が企画するコンサート ボランティアの広め方講座		New 年賀状 LINE 市民性 多文化交流映画祭 国際交流会	10月

ワーク記録②「あなたが行きたくなるような生涯学習センターの1年間を考える」

資料3

	A班	B班	C班	D班	E班	
11月	文化のまちづくり交流会 市民が企画するコンサート	小山の菊祭り	マラソンのつかれない走り方 11月の気候にぴったり洋服コーディネートこ うざ 手芸工作講座 おせわになってる人に感謝をのべようこうざ	ウォーキング大会		11月
12月	酒蔵とコラボ YouTube 防災・くらしの安心講座 避難訓練コンサート	神社 各神社の手越し	クリスマスの楽しみ方 1年間を振り返る会 冬休みの宿題しらすの方 大そうじのコツ	美術・音楽・工会講座	Xmas おせち料理の作り方 酒づくり文化と新酒	12月
1月	防災クッキング 農家さんとコラボ YouTube 金融④	各神社の年始 野外見学(冬)	年明けの充実ポイント講座 バレンタインホワイトデーについて まちづくりのシンポジウム		餅つき大会	1月
2月		各神社の豆まき	SNS 上手な使い方講座 お菓子作り 恋愛トーク		ひなまつり 恵方巻を作ろう! 新社会人応援講座 マナー研修	2月
3月		小中高の卒業式	入学する子供の準備と心のケア これからの生活(新生活) お別れのプレゼントのえらび方 サークルの上手なえらび方 アルバイトを始めよう講座 子育て孫育て講座		お寿司の作り方 園芸農芸講座 祭り寿司を作ろう!	3月
年間					文化・歴史講座 整理収納 小山の歴史 ライフプランナーの家計講座	年間を 通じて
体験 学習					心理 気づき ダイアログインザダーク コミュニケーション	体験学 習

## 市民の声を聴く機会①

## 生涯学習と生涯学習センターに関する市民対象のアンケート調査結果報告

小山市教育委員会 生涯学習課

## はじめに

小山市立生涯学習センターの今後の在り方に関する調査の一環として「市民の声を聞く機会」を設け、市民向けの公開フォーラムとアンケートを実施しました。アンケートは市内の各公民館、生涯学習センター並びに各市民交流センター、まちなか交流センターに紙（筆記式）による記入票を配置するとともに、オンラインサイトからの回答も可能としました。

## 概略

アンケートは実施期間を令和4年5月15日～6月15日とし、「生涯の学び」についての質問項目と「小山市立生涯学習センターのあり方」に関する質問項目とに分けて、市民等がどのような学びを求めているかを問いました。

	設問数		設問概略	
おもて面	第1群	2問	生涯学習センターについて	利用頻度と手段
	第2群	1問		各催事の参加経験の有無
		4カ所、各2問		各部の利用実績と感想
		1問		センターの魅力
うら面	第3群	2問	生涯学習について	学びたい理由、学ぶ理由
		1問		充実してほしい情報
	第4群	1問		生涯学習について
		1問、自由記述		お気に入り点
		1問、自由記述		期待と提案
	第5群	4問		フェイスシート

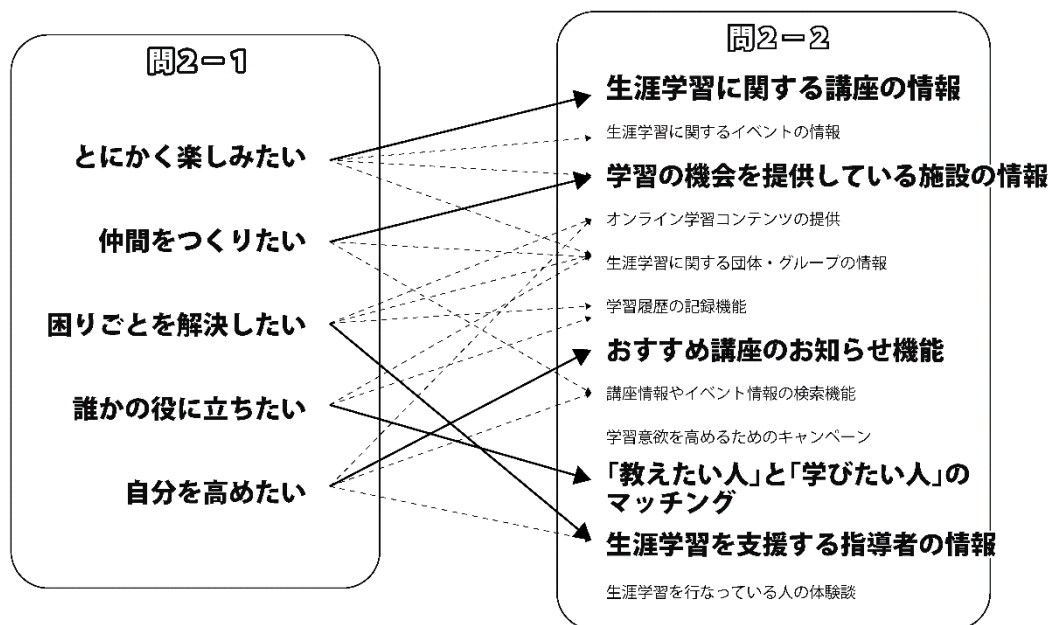
前半（おもて面）は小山市立生涯学習センターの使い方について問い、利用頻度、利用における交通手段、またそれぞれの場所に対する利用実績や気づいたことを回答できるようにしました。

後半（うら面）では、回答者が現時点で必要とする学びや将来に向けてどういった事柄を学びたいかを回答する内容になっていて、自由記述の質問も2点、「生涯学習センターの良いところ」についてと、全体に対する「総合的な回答を行う質問」とを用意しました。これらに関しては、計量的な評価よりも個別的または具体的な事柄を丁寧かつ広く集めたほうが参考すべき情報が得られるのではないかと考えたものです。最後にフェイスシート（年齢や家族構成など個人的な質問項目）を設け、回答者の属性を絞る質問をしています。

## 回答票の集約結果

1ヵ月間の募集期間で計269通の回答を得ることができ、得られた回答を集計した後、回答者の属性別（男女の別であったり、年代の別であったり等のことを指します）の母数を補正する形で簡単な分析を行いました。

個人名など個人情報が一切ない形で回答票を受け取りましたが、各回答は1票ずつ管理され、そのことにより、とある設問の回答と別の設問の回答とを結びつけることができます。すなわち、ある質問の回答結果一つ一つの回答項目を「選んだ」か「選ばなかった」かによって別の質問の回答を掛け合わせによる類別をしました（クロス集計）。そうしたところ、質問それぞれの掛け合わせにおいて、たとえば質問2-1「何のために学ぶのか」と質問2-2「どのような情報を求めているか」とについて、次のような関係性が見られました。



得られた結果については、小山市立生涯学習センターや小山市の生涯学習の推進に必要となる市民ニーズを具体的な方策と併せて今後の事業づくりや講座、交流会などの組み立てにおいて参考とし、活用いたします。

本報では、アンケートの集計や分析の結果をつぎのようまとめました。

- 1 節 集計
- 2 節 データ概観
- 3 節 分析
- 4 節 まとめ

## 第1節 集計

アンケートのおもて面では生涯学習センターの使い方やそれに伴う感想などを尋ねています。うら面最後のフェイスシートとともに回答者の属性概略を示して関係性をたどることが出来ますが、ここではまず単純集計を見ることとします。

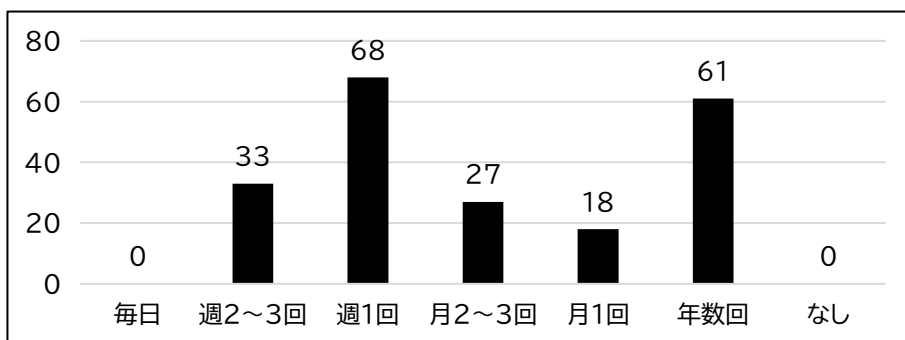
忘れてはならない観点としては、この集計結果は単に回答者の傾向を示しているだけで、小山市立生涯学習センター利用者の全体像や、小山市民全体の傾向を示すものではありません。それを前提として集計結果をたどることとします。

### 1. 1 おもて面

おもて面は全5問。ここでは主に生涯学習センターの使い方や使い勝手とその感想について質問しています。

#### 問1-1. センター利用の頻度

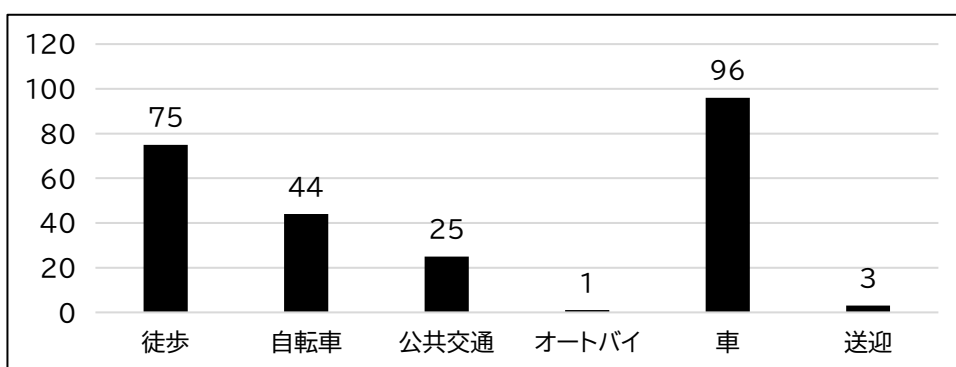
回答した方々のセンターの利用頻度については「3. 週1回の利用を行う人」と、「6. 年数回の利用を行う人」の2つがより多く回答を集めていました。



	個数
毎日	0
週2~3回	33
週1回	68
月2~3回	27
月1回	18
年数回	61
利用したことはない	0

#### 問1-2. センターまでの交通手段

センターまでの交通手段では「自家用車（選択肢では「車」と表記）」の利用者が最も多く、次いで「徒歩」での利用でした。中心市街地にある施設なので「徒歩」につづけて「自転車」「公共交通」も一定の回答を集めています。

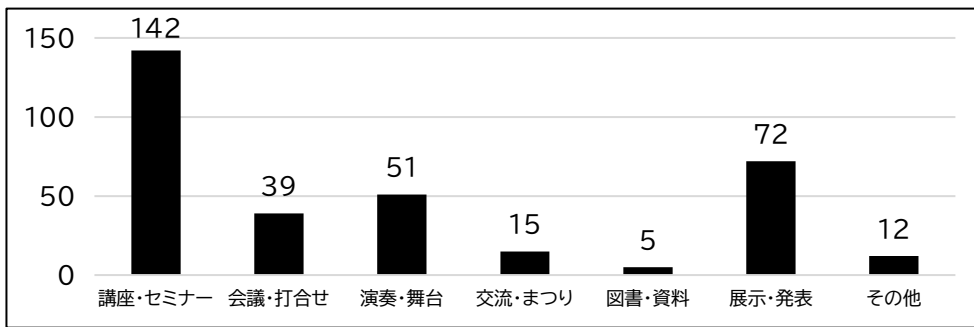


	個数
徒歩	75
自転車	44
公共交通	24
オートバイ	1
車	96
送迎	3

#### 問1-3. 参加したことがあるセンターの行事やサービス

センターでの行事に参加したりサービスを利用したかどうかを問うた回答では「講座・セミナー」が最も多く、次いで「展示・発表」となっていました。また、それらに「演奏・舞台」と「会議・打合せ」が続いています。

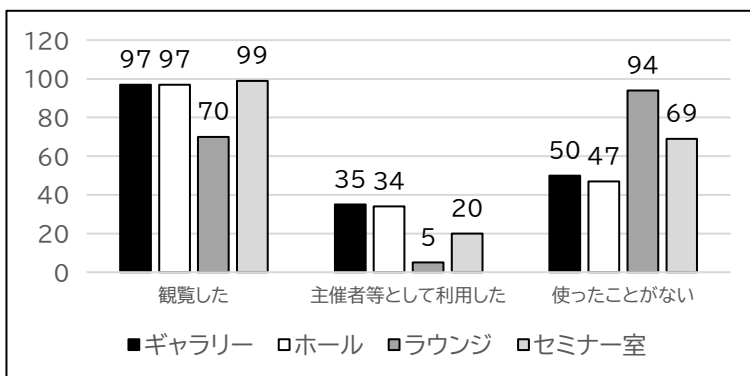




	個数
講座・セミナー	142
会議・打合せ	39
演奏・舞台	51
交流・まつり	15
図書・資料	5
展示・発表	72
その他	12

#### 問1-4. 利用の有無と形態

センター内の主要な4設備について、利用の仕方とその感想を問うています。観覧利用（客体としての参加）が多くを占め、主催者としての利用（主体利用）は、その3～5分の1程度で、それぞれの設備を「まだ使ったことがない」という回答も5分の1程度見られました。



	ギャラリー	ホール	ラウンジ	セミナー
観覧した	97	97	70	99
主催者等として	35	34	5	20
使っていない	50	47	94	69

※ラウンジに関しては自由利用なので「観覧した」ではなく「たまに休憩する程度」、「主催者等として利用」に替えて「好んで利用する」の回答を掲載しています。

#### 問1-4-2. 利用の有無と形態

その後、それぞれの設備について「使って気づいた点（あれば）」を尋ねていて、回答概略（件数）は次の通りとなりました。

	ギャラリー	ホール	ラウンジ	セミナー室
よかったこと	4件	6件	5件	5件
悪かったこと	4件 (2)	8件 (3)	4件 (1)	8件 (3)
みんなのための提案	2件	2件	なし	1件
自分のための提案	3件	3件	1件	2件
その他、感想	4件	6件	3件	4件

このうち「悪かったこと」の（ ）内の数字は、料金が低い、照明が暗い、部屋が狭い、の3つの回答の数を示しています。

本回答の全編はp 18に整理していますが、そのうち「みんなのため一般」の提案項目では、次のよう

な趣旨の回答がありました。

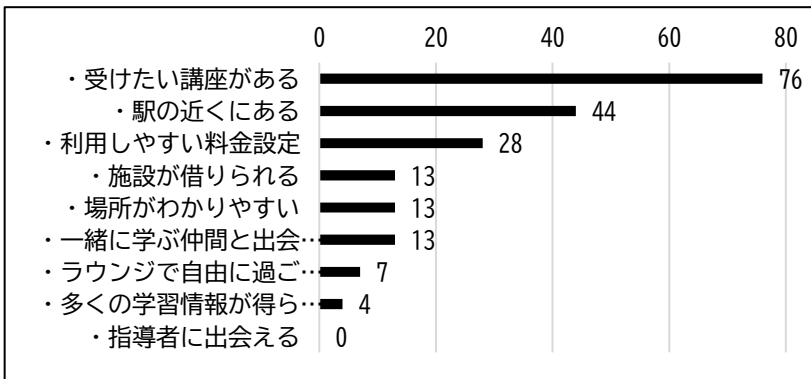
- 若い方が参加しやすい工夫（若手芸術家展やコンサート）を
- 新幹線駅隣接や小部屋が複数ある当施設の特徴を、県外の講師招へいのし易さとしてアピールすべき
- いざとなった時のために避難訓練を拡充すべき
- セミナー室のイスとテーブルの削減（狭さの緩和）

一方、みんなのための提案に対して自分のための提案とも言える「利用上の課題や都合」についての提案項目については、次のような声がありました。

- ヨガ利用のような短時間しか必要としない団体向けの利用枠を設けてほしい
- Wi-Fiを整備してほしい
- 1つの部屋を分割して使える様にしてほしい

### 問1-5. あなたが感じるセンターの魅力

センターの魅力について尋ねている設問です。「受きたい講座がある」ことが最も多く、「駅の近くである」こと、「料金設定が利用しやすい」が続いています。



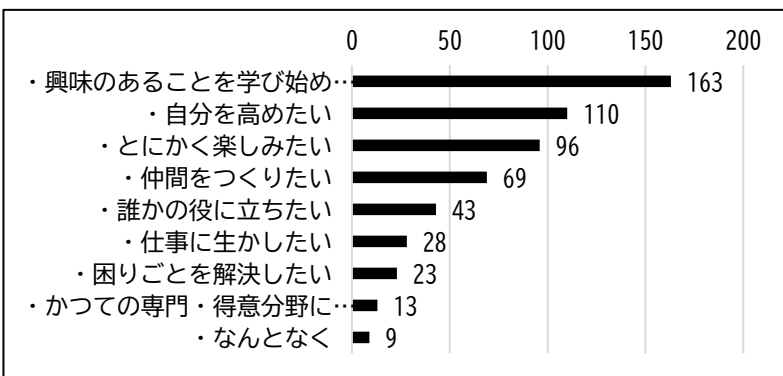
魅力	個数
・受きたい講座がある	76
・駅の近くにある	44
・利用しやすい料金設定	28
・施設が借りられる	13
・場所がわかりやすい	13
・一緒に学ぶ仲間と出会う	13
・ラウンジで自由に過ごす	7
・多くの学習情報が得られる	4
・指導者に会える	0
・無回答	15
・その他	4
合計	217

## 1. 2 うら面

うら面では回答者の「学び」に関する設問が中心となっていて、最後には回答者の属性概略を分類するフェイスシートを4問設けています。

### 問2-1. あなたが学びたい理由

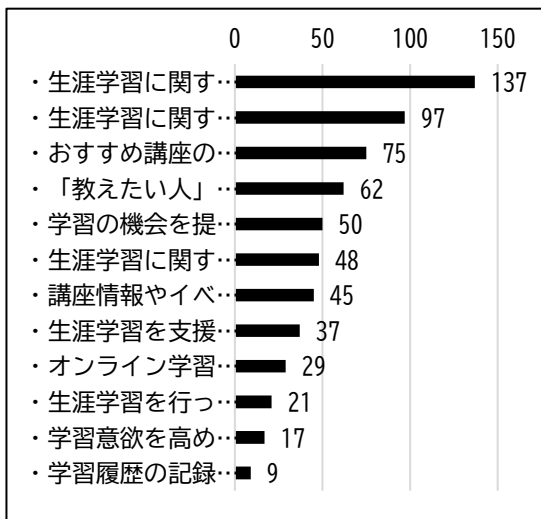
回答者が学びたい理由を尋ねています。「興味のあることを学び始めたい」が一番多く、「自分を高めたい」「とにかく楽しみたい」「仲間をつくりたい」との回答が続きました。



理由	個数
・興味のあることを学び始めたい	163
・自分を高めたい	110
・とにかく楽しみたい	96
・仲間をつくりたい	69
・誰かの役に立ちたい	43
・仕事に生かしたい	28
・困りごとを解決したい	23
・かつての専門・得意分野について学びなおしたい	13
・なんとなく	9
・無回答	28
・その他	6
合計	588

### 問2-2. センターで充実してほしい情報

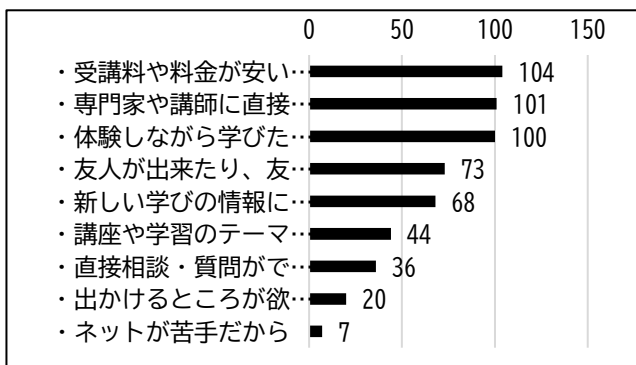
センターで充実してほしい情報については、それぞれ「生涯学習に関する講座の情報」「同・イベントの情報」が2大回答となり、次いで「おすすめ講座のお知らせ機能」や、「教えたい人と教わりたい人とのマッチング」等がつづきました。



	個数
・生涯学習に関する講座の情報	137
・生涯学習に関するイベントの情報	97
・おすすめ講座のお知らせ機能	75
・「教えたい人」と「学びたい人」のマッチング機能	62
・学習の機会を提供している施設の情報	50
・生涯学習に関する団体・グループの情報	48
・講座情報やイベント情報の検索機能	45
・生涯学習を支援する指導者の情報	37
・オンライン学習コンテンツの提供	29
・生涯学習を行っている人の体験談	21
・学習意欲を高めるためのキャンペーン・プレゼント等	17
・学習履歴の記録機能	9
・その他	7
・特になし	11
・無回答	34
合計	679

### 問2-3. 生涯学習施設に来て学ぶ理由

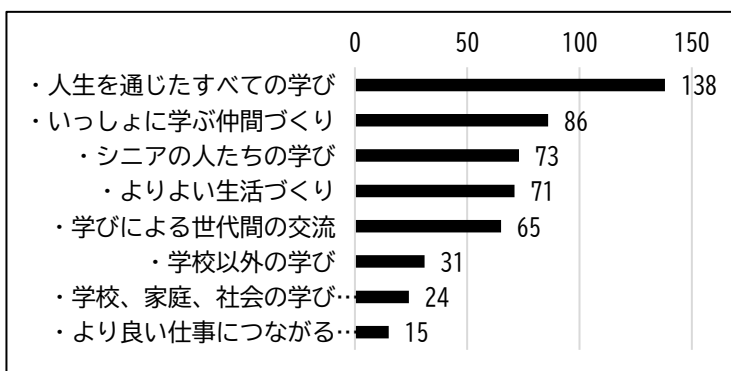
センター（等）で学ぶ理由としては「受講料や料金が安い」「体験しながら学びたい」「専門家や講師に気軽に話ができる」が上位に来ていました。



	個数
・受講料や料金が安いから	104
・専門家や講師に直接話を聞いて学べるから	101
・体験しながら学びたいから	100
・友人が出来たり、友達に会えるから	73
・新しい学びの情報に触れられるから	68
・講座や学習のテーマや難易度がちょうど良いから	44
・直接相談・質問ができるから	36
・出かけるところが欲しいから	20
・ネットが苦手だから	7
・無回答	0
・その他	0
合計	553

### 問2-4. 「生涯学習」という言葉についてあなたが抱くイメージ

「人生を通じたすべての学び」やそのきっかけとなる「いっしょに学ぶ仲間づくり」の選択肢に回答が集まっていました。



	個数
・人生を通じたすべての学び	138
・いっしょに学ぶ仲間づくり	86
・シニアの人たちの学び	73
・よりよい生活づくり	71
・学びによる世代間の交流	65
・学校以外の学び	31
・学校、家庭、社会の学びの集大成	24
・より良い仕事につながる学び	15
・無回答	0
・その他	0
合計	503

### 問2-5 「センター利用で気に入っているところ（好きなこと、もの）」

現在のセンターに関して「気に入っている点」について尋ねたところ、次のような回答傾向が見られました。（詳細はp19）

種類	回答数
便利（近くて便利を含む）	19件
手軽な料金	6件
気軽に参加できる	8件
職員が親切	10件
清潔	2件
交流、出会い	3件
ヨガ・ストレッチ講座が受けられる	6件
かつて魅力があった	1件
意見（苦情ほか）	7件

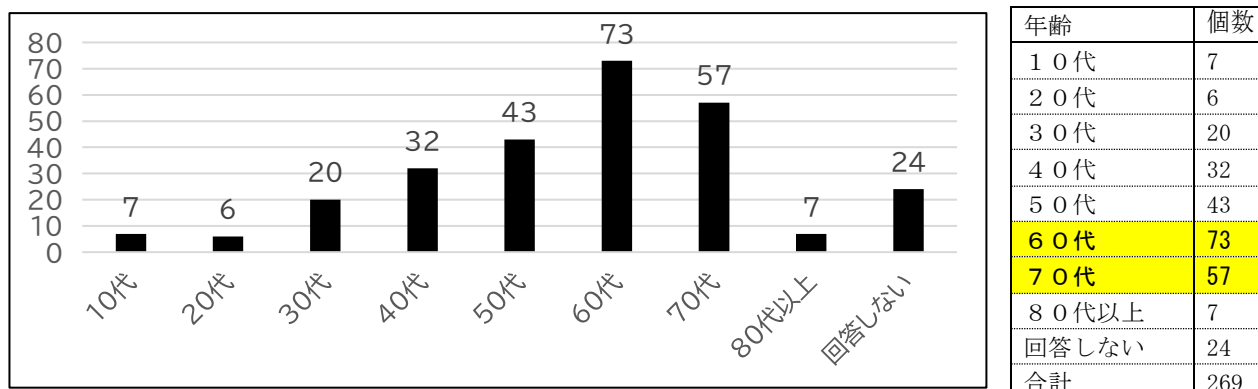
### 問2-6 「小山市の生涯学習への期待」

さらに「小山市の生涯学習への取り組みに関する期待」について自由回答を求めています。この回答数の概要は次の通りです。（詳細はp20の質問2-6の回答全編をご覧ください）

生涯学習について	在り方や提案	24件
	広報・啓発	4件
生涯学習センターについて	センターの在り方	20件
	センターの広報	4件
	センターの料金	5件
	貸館業務の在り方	2件
	講座	29件
	講座の在り方	4件
	駐車場	16件
その他	7件	

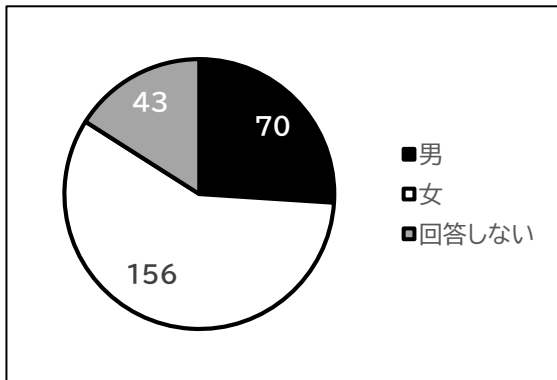
意見や提案のなかには、「マニアックな学びの場が欲しい」や、一方で「リラックスできる場があるのが良い」「悩みがある人の癒しの場になるような場所」などの回答が寄せられていました。立場や置かれた状況によって様々なアイデアが書かれていました。

以下の設問はフェイスシートです。回答者の中では60代が最も多く、続いて70代、50台と分布していました。80代の方も7人がこのアンケートに回答していました。



### 男女別の回答者数

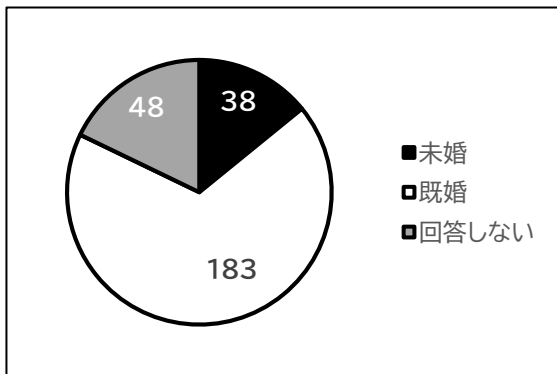
男女の別について回答のない方が2割近くいましたが、回答した方の中での男女比はおよそ1対2ほど、となっていました。



性別	性別
男	70
女	156
回答しない	43
合計	269

### 未婚者と既婚者の別

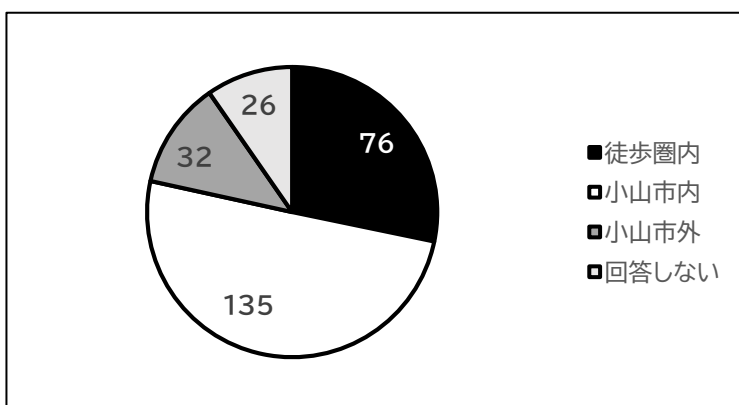
未婚者と既婚者の別について、その比率は1対4となっていました。



ご家族	未婚か既婚か
未婚	38
既婚	183
回答しない	48
合計	269

### 市内（市外）のどこにお住まいか

センター近隣（徒歩圏内）の方を含めて、全体の4分の3以上の方が小山市在住でした。その小山市在住の方のうちでは、2対3で徒歩圏内とそれ以外、となっていました。



お住まい	お住まい
徒歩圏内	76
小山市内	135
小山市外	32
回答しない	26
合計	269

## 1. 3 まとめ

以上の回答結果の集計により、回答者やおおむねのセンター利用者の傾向を知ることが出来ました。そこからみられた回答者像は、次の通りです。

来館頻度でみて「毎週来る人」と「年数回来る人」とが回答者の2本柱となっていたこと、「徒歩で来る」と「車で来る」とが来場者の2大移動手段であること（次いで自転車）、そして「講座・セミナー」と「展示・発表」が、回答者の方々の2大行動目的でした。

来館頻度	毎週来る人
	年数回来る人
来館手段	徒歩で来る
	車で来る
来館目的	講座・セミナー
	展示・発表

回答者の傾向概略の上位2群

また回答者の方々は、ギャラリーやホール、セミナー室を観覧者（主催者ではない一般参加者）として多く使っていました。

さらに、問1-5にあるセンターの魅力への回答は、「受きたい講座がある」が総回答の3分の1と多数ありました。また、うら面に行き、問2-1の学びたい理由についても「興味のあることを学び始めたい」が同様に総回答の3分の1と多数ありました。

センターで充実してほしい情報は「講座の情報」と「イベントの情報」が上位を占めていました。さらに生涯学習施設に来て学ぶ理由は「受講料が安いから」「専門家や講師に直接学べるから」「体験しながら学びたいから」が上位を占めていました。

センターの魅力	受きたい講座がある
学びたい理由	興味のあることを学び始めたい
充実してほしい情報	講座の情報、イベントの情報
施設に来て学ぶ理由	受講料が安い 専門家や講師に直接学べる 体験しながら学びたい

回答者の学びやセンター利用の動機上位

生涯学習のイメージは「人生を通じたすべての学び」という回答が多く、ついで「いっしょに学ぶ仲間づくり」「シニアの人たちの学び」が続きました。

回答者は60代、70代を中心に、10代から80代までの各年代にわたって分布していて、男女比はおおよそ1対2となっていました。

年代層	60代、70代を中心にした分布
男女比	男性1：女性2
未婚・既婚	未婚1：既婚4

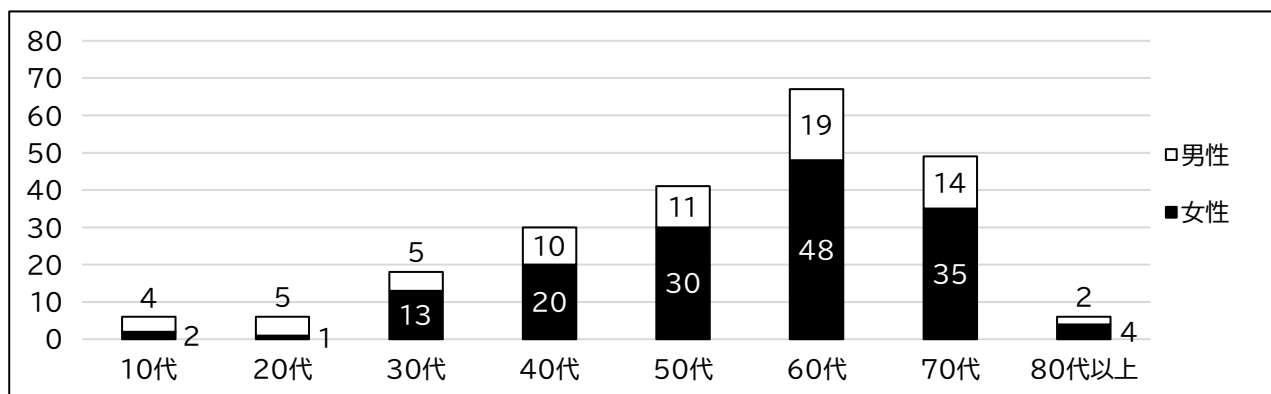
回答者の個人属性の傾向

## 第2節 データ概観

第1節では単純集計をしました。このことで回答者全体のおよその傾向を知ることが出来ました。次に、回答者の属性や選択肢の選び具合（選好といいます）を少し細かく見ていきます。

### 回答者の年代×男女

回答者の年代別の回答に男女比を添えてみました。具体的には「男女別」の回答に「年代」を掛け合わせたものです。結果は次のグラフの通りで、全体にわたって男性が少ない状況です。（ただし本節、次節では「回答しない」を含めていません）

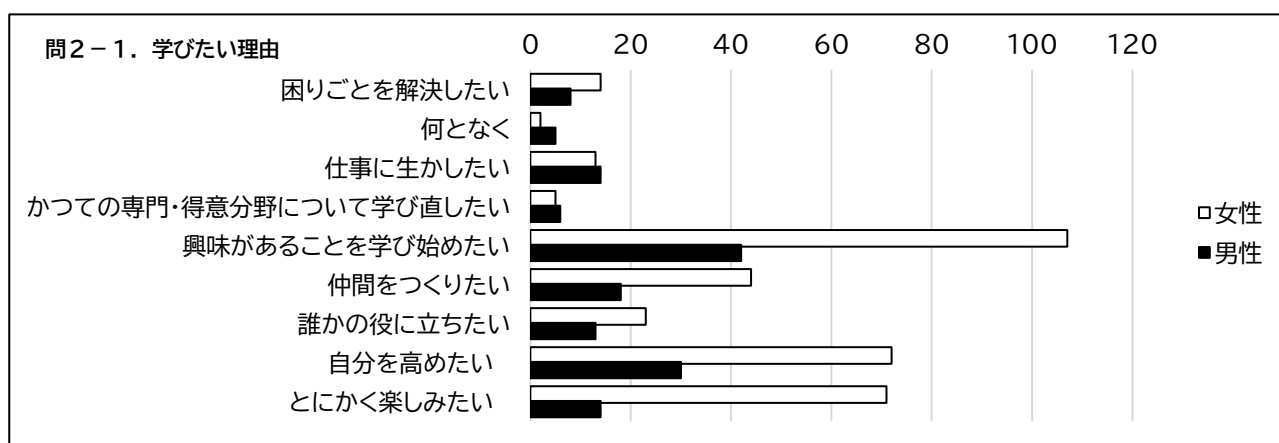


（年代別の無回答者、男女別の無回答者がそれぞれいるため合計数は1節のグラフと一致しません）

### 「学びたい理由」×男女

この状況を前提にしたうえで、問2-1の回答に同じように男女別を掛け合わせてみました。男女差が大きいものとしては、「とにかく楽しみたい」「仲間をつくりたい」「興味があることを学び始めたい」などが見られます。

なお、もう一つの注意点として単純集計の分別ですので、もともと男女比で回答数が約2倍多い女性の回答が自然と目に付くことに留意してください。

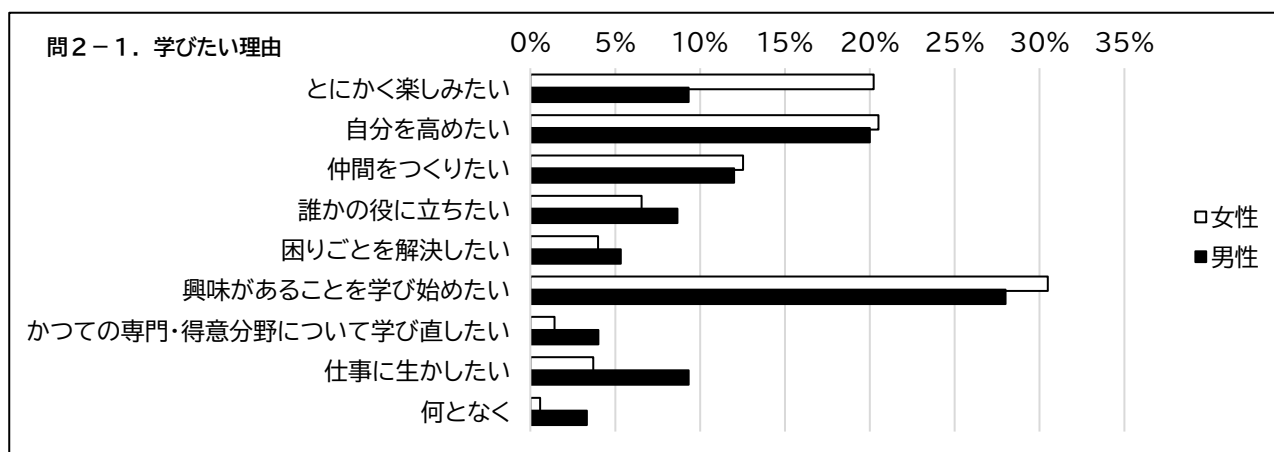


以上、ここでは単純集計とその下での回答の掛け合わせを見てみました。第3節では本節での回答傾向を考慮した集計結果をもとにさらに掛け合わせを行い、回答者にとっての生涯学習センターの利用意向や生涯学習への受け止め方を、もう少し詳しく見てみます。

### 第3節 分析

前節では、ある回答に対する属性の違いの掛け合わせをもとに、一つの回答の中に含まれる複数の属性の分布について簡単に見てみました。その中で注意点として挙げたのが属性に分けた際の回答数の大小による比較結果の大小への影響でした。そこで、回答の数ではなく同じカテゴリー（男性は男性、女性は女性）の回答内での「割合」で求めることで、影響を抑えることができます。

前節の最初のグラフを男女別に回答を選んだ率で示したのが次のグラフです。

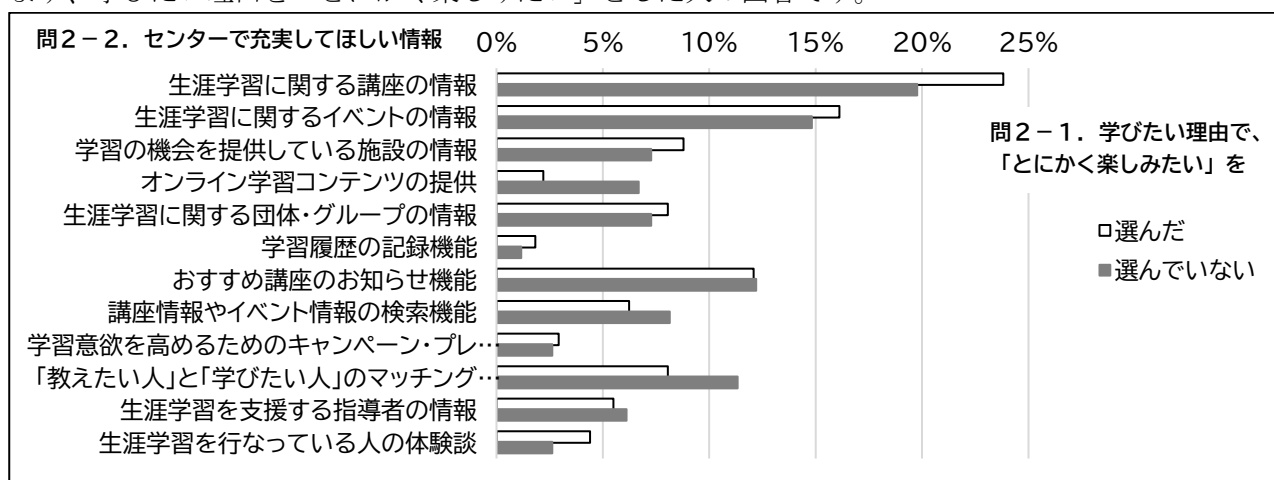


回答者のうち、男性が「仕事に生かしたい」、女性が「とにかく楽しみたい」という視点で学びを意味づけているのが、よりはっきりわかります。また、自分を高めたい、仲間をつくりたい、興味があることを学び始めたい、との回答に、それほど選好率（選ぶ度合い）の違いがないこともわかります。

#### 「学びたい理由」×「充実してほしい情報」

つぎに、問2-2の「センターで充実してほしい情報」を、問2-1の「学びたい理由」で選んだ回答ごとに選り分けて、その回答者の選好状況を見てみます。

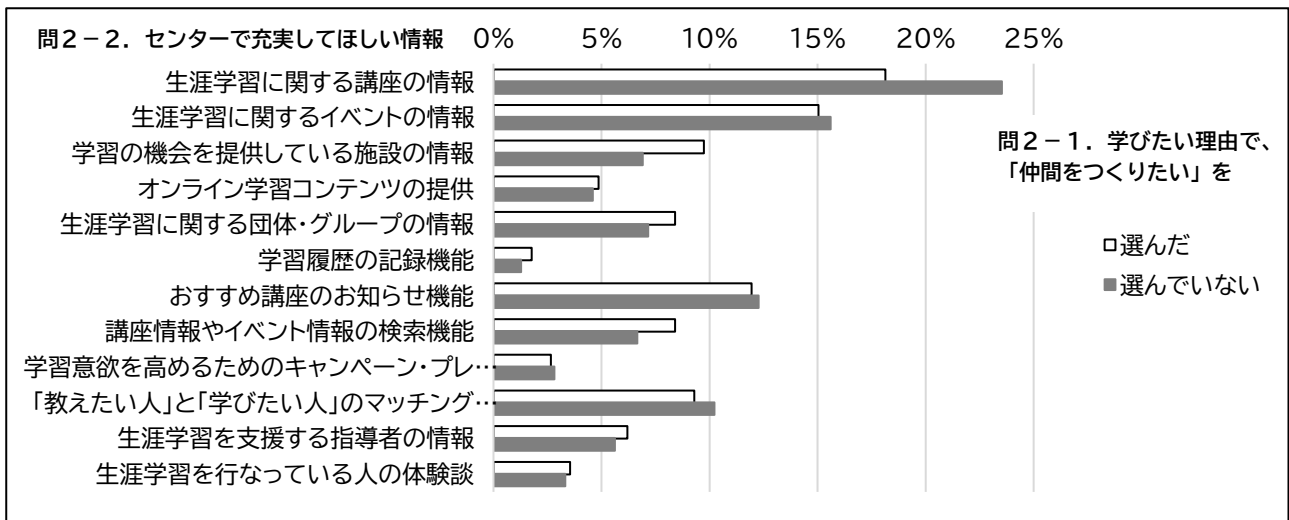
まず、学びたい理由を「とにかく楽しみたい」とした人の回答です。



生涯学習に関する講座の情報、イベントの情報、施設の情報、グループの情報を、より多く選んでいるようです。

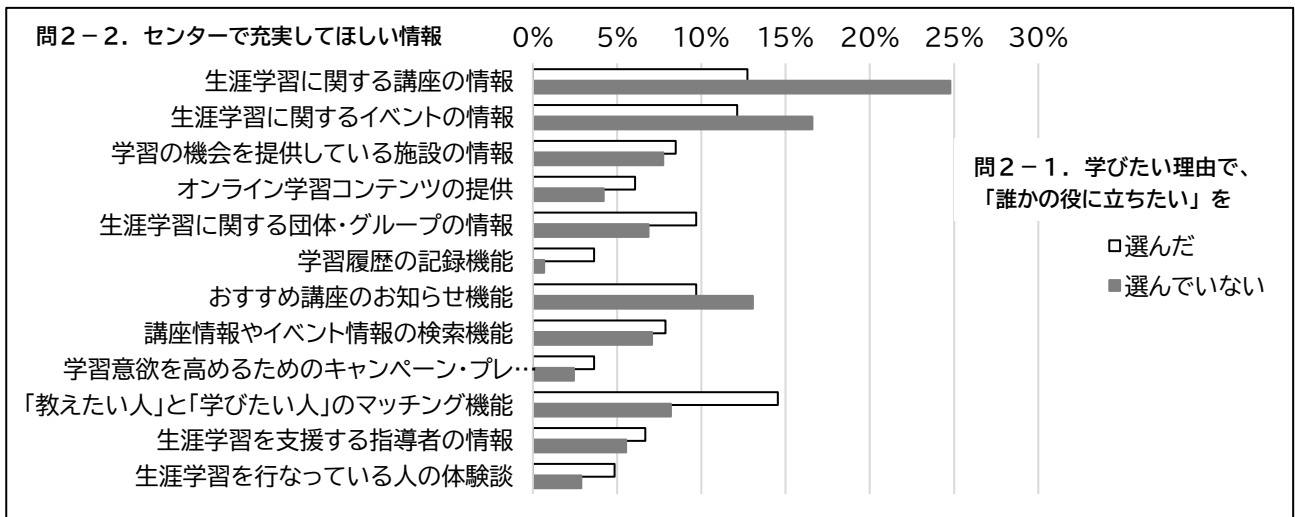
次に、同じく学びに求める事柄を「仲間をつくりたい」とした人の回答です。





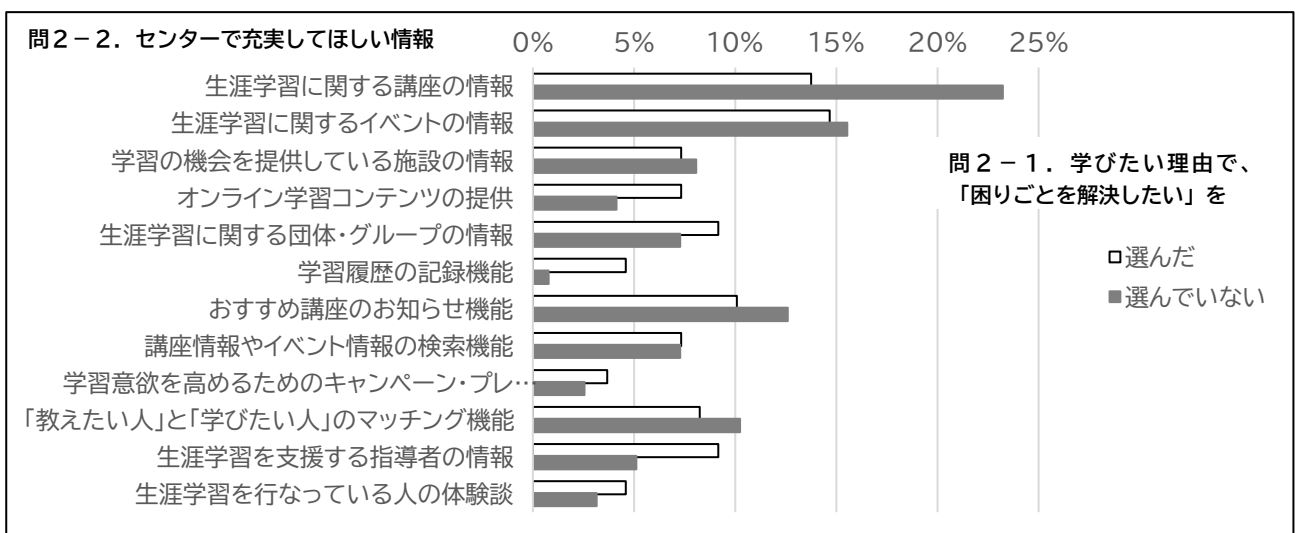
比較すると、講座情報やイベント情報の検索機能や、学習機会を提供している施設の情報の情報、学習グループの情報を求めています。

次に、「誰かの役に立ちたい」とした人の回答です。



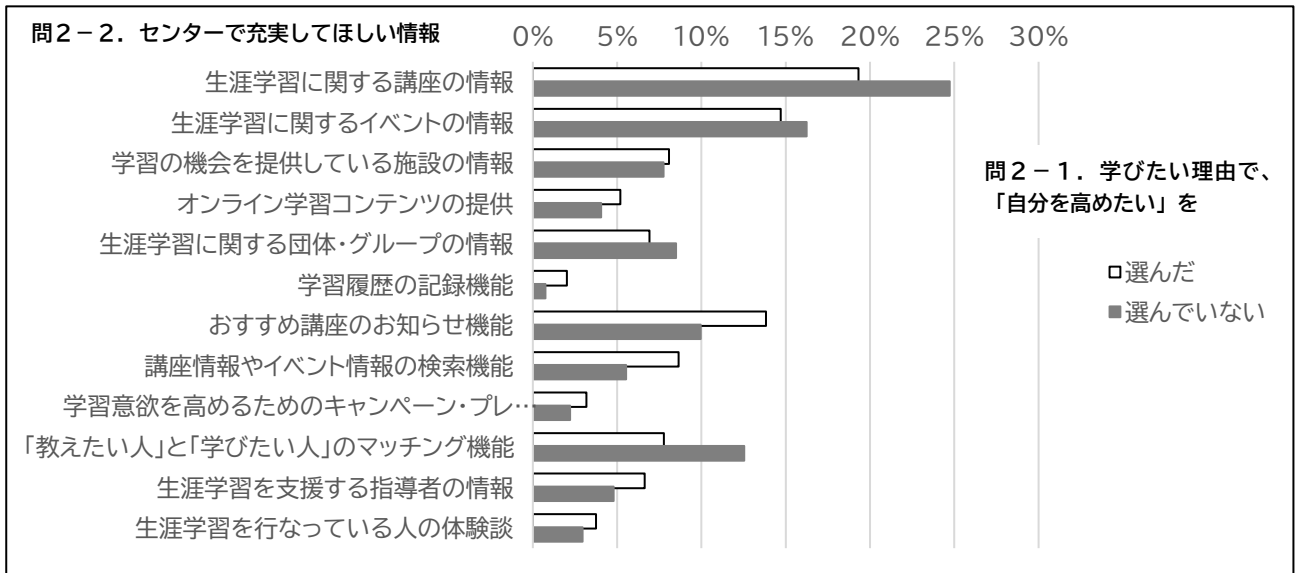
教えたい人と学びたい人のマッチング機能、生涯学習グループの情報の情報、オンライン学習コンテンツ、そして学習者の体験談を求めている割合が高く出ました。

さらに、「困りごとを解決したい」とした人の回答です。



「学習履歴の記録機能」と「生涯学習を支援する指導者の情報」を選好する割合が高く、次いで「オンライン学習コンテンツの提供」、さらに「生涯学習を行っている人の体験談」、「生涯学習グループ等の情報」と続きました。

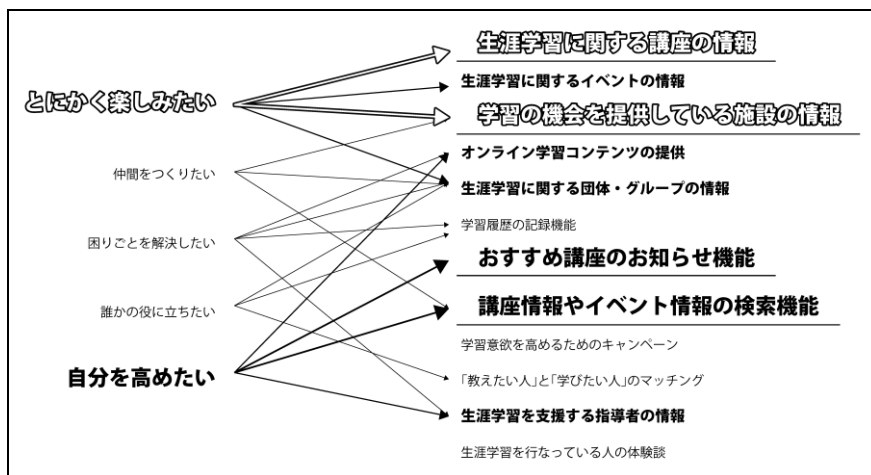
5つ目は、「自分を高めたい」とした人の回答傾向です。



「おすすめ講座のお知らせ機能」をより多く選好していて、また講座情報、イベント情報の検索機能にも回答が集まっています。ほかには学習履歴の記録機能や指導者の情報にも回答が集まっています。半面、マッチングに対する選好の割合は低く、こうしたことから回答者が自分に合った講座を自分で選び、また自分でそうした体験や活動を管理しようとする姿が浮かびます。

### 「自分を高めたい」人と「とにかく楽しみたい」人の比較

以上のように、たとえば問2-1の「学びたい理由」(左側)において、「自分を高めたい」人の回答と「とにかく楽しみたい」人の回答を並べてみて、問2-2の「センターで充実してほしい情報」(右側)のどこに回答が集中しているかを観測すると、回答数の差をもとにした関係性が見えてきます。



( 左：問2-1「学びたい理由」 右：問2-2「センターで充実してほしい情報」 )

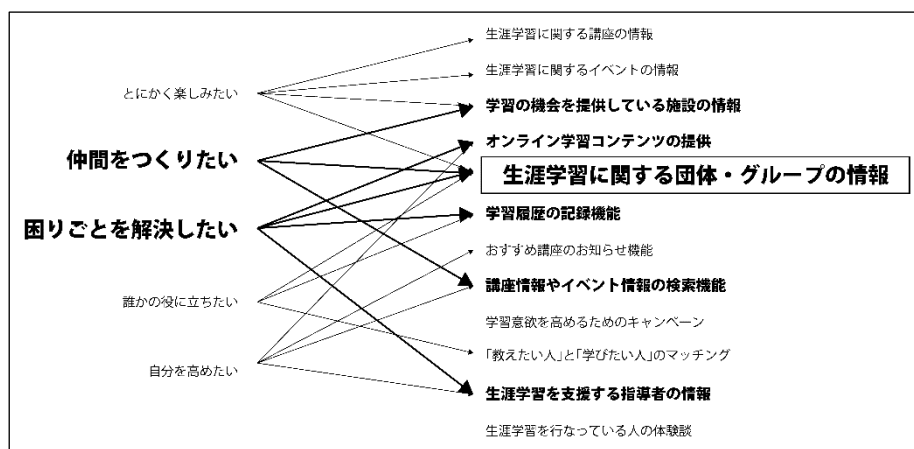
「自分を高めたい」人に着目すると、講座情報のお知らせを受けたり、自分自身で情報検索したりしていました。同じように「とにかく楽しみたい」人は、講座情報全般や施設情報全般を求めています。

ひとつの質問票への回答として「講座情報を知りたい」と望んでいても、背景となる意識によって講座情報の望み方（質や講座情報の集め方など）は多様で、属性ごとに選好する意義に違いがあることがわかりました。

### 「生涯学習に関する団体・グループの情報」に関する気づき

クロス集計をもとにした別の読み取りについて、もう少し述べます。

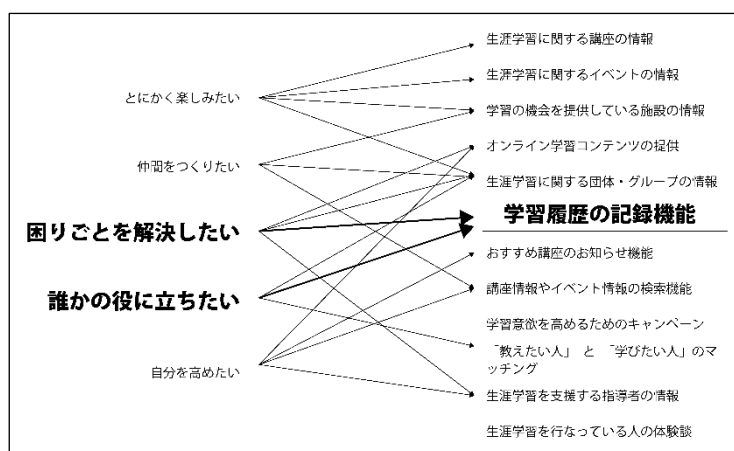
「仲間をつくりたい」という回答をした人と、「困りごとを解決したい」という回答をした人との間では共通項があまり感じられないのですが、ともに「生涯学習に関する団体・グループの情報」を選んでいました。



（ 左：問2-1 「学びたい理由」 右：問2-2 「センターで充実してほしい情報」 ）

### 「学習履歴の記録機能」に関する気づき

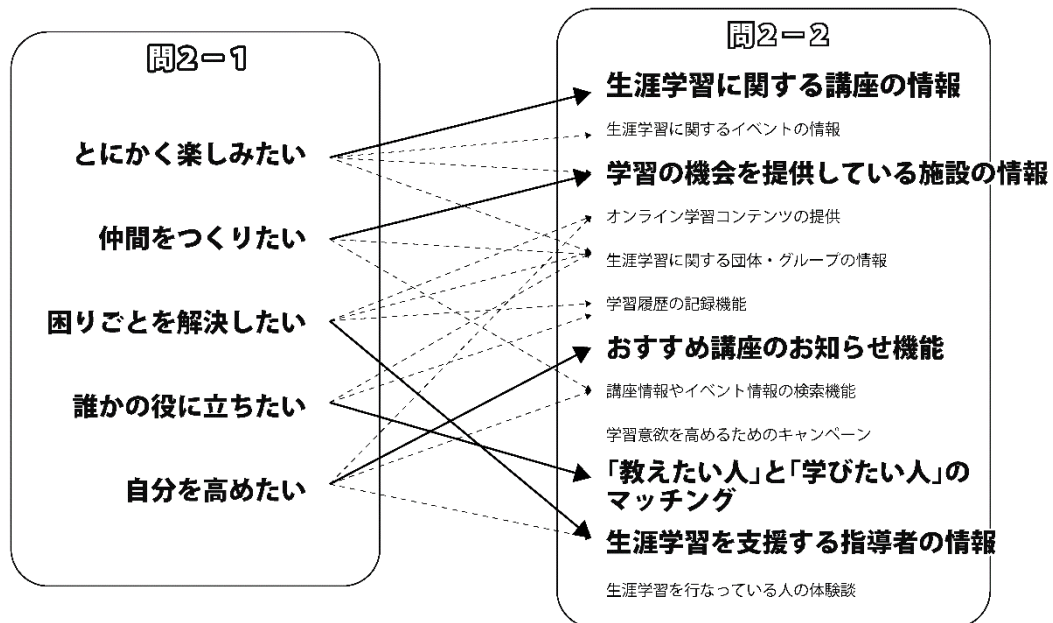
問2-2において「学習履歴の記録機能」を選好した人たちは決して多くなく、12項目中、12番目になっていました。しかしながら、問2-1で「困りごとを解決したい」もしくは「誰かの役に立ちたい」を選んだ人だけに絞れば、その多くが本回答を選好していて、他との開きが際立ちました。



（ 左：問2-1 「学びたい理由」 右：問2-2 「センターで充実してほしい情報」 ）

## まとめ

本節では問2-1「何のために学ぶのか」と問2-2「どのような情報を求めているか」との掛け合わせを概観しただけですが、いくつかの回答の集中による具体的な傾向に気づきました。



( 左：問2-1「学びたい理由」 右：問2-2「センターで充実してほしい情報」 )

その結果、回答の選び方には回答者それぞれの背景があり、様々な関係性が理解できました。

## 第4節. まとめ

今回の市民アンケートは、1か月間で269人の回答が得られ、おおむねの傾向を把握することが出来ました。

1節でみてきた通り、回答者全体の傾向からおおよその市民全体の意識の傾向を推し量ることが出来、また2節で解釈したとおり、そのデータの内実を丁寧にみることで偏りの具体的な状況を知ることが出来ました。しかしながら市の人口からみると全体の0.16%にとどまっていることから、市民ニーズのさらなる抽出のためには今後も幅広い年齢層や多くの市民の声を聴くことが必要であると考えられます。

そのうえで、3節でみてきたように小山市立生涯学習センターの在り方や小山市の生涯学習の推進において、その市民ニーズについて具体的な形で得られる可能性を見いだすことも出来ました。

調査を踏まえて小山市民の生涯学習ニーズの一端を知見として得ることが出来たことで、また、得られた市民の声については、今後の事業づくりや講座、交流会などの構想やその具体化の作業の中で、大いに参考にしてまいります。

今後も事業づくりや計画づくりのなかで「市民の声を聴く機会」を設けて様々な声を受け止め、事業づくりに生かしてまいります。

# 資料編

## 自由記述の回答全文

- 問1-4 館内ギャラリーやホールなどの施設を「使って気づいた点」について、教えてください。（「良い事」でも「悪い事」でも構いません）
- 問2-5 日ごろ、センターを利用されている方で「気に入っているところ（好きなこと・もの）」はありますか？
- 問2-6 最後に、今後の小山市の生涯学習活動に関する取り組みに対して、期待することやご提案がありましたら、自由にお書きください。

## 調査に使用したアンケート票

おもて面

うら面

問1-4：館内のギャラリーやホールなどの施設を「使って気づいた点」について、教えてください。（「良い事」でも「悪い事」でも構いません）

	ギャラリー	ホール	ラウンジ	セミナー室	
よかったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オープンな空間なので開放的。利用しやすかった。</li> <li>●買い物に来たときに習字の展示会を見ました。家族で買い物を楽しむことと展示を見ることが同時にできて良かったと思います。</li> <li>●静かで落ち着いていて良いと思った。</li> <li>●ちょうどいい広さだった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミニコンサートを観覧しましたが、こじんまりしていて良い感じでした。</li> <li>●近くで演奏を聴けるので、いい。</li> <li>●大き目のセミナーなどをやるには良い。音響施設が充実している。</li> <li>●各種イベントで活用できそうに感じた。</li> <li>●席が近いのでよく見えるし、臨場感があってよい。</li> <li>●冷暖房完備で使いやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いつも綺麗に掃除ができていますね</li> <li>●ゆっくり休憩する事ができる</li> <li>●休憩できるスペースがあるのはよいと思います。</li> <li>●静かで落ち着いていて良いと思った。</li> <li>●講座に参加した際、ラウンジのイベントの案内チラシをいただき、行ってみたいイベントに出会えた。</li> <li>●学生にも良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●和室を使用しましたが、綺麗な部屋でした。</li> <li>●コンパクトな空間だが窓もあり良い。小さめのセミナーや研修にはちょうど良い。</li> <li>●窓があって良いと思った。</li> <li>●清潔な感じで明るい</li> <li>●広くて良いと思った</li> </ul>	
悪かったこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>●すぐ見終わるので満足度低めです</li> <li>●ヨガ講座に参加した時、土足のきたないところにマットをしいた…気持ち悪かった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●10月でしたが、エアコン効き過ぎでした。</li> <li>●柱が邪魔</li> <li>●奥行きを感じられない印象でした</li> <li>●換気の悪さ</li> <li>●せまい、音がよく聞こえない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●古ぼけている</li> <li>●常連の人が、凶々しい感じがした</li> <li>●椅子(ソファが使いづらい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オシャレ感がないです。</li> <li>●老朽化した壁やカーテンという感じです。</li> <li>●閉鎖的な感じがするので</li> <li>●物置？</li> <li>●二方向の出入口が充分でなく、学びの部屋としては狭いし使いにくい感じがした。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●料金が高い</li> <li>●料金が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●暗い</li> <li>●料金が高い</li> <li>●料金が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●暗い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●料金が、高い</li> <li>●せまくるしい</li> <li>●狭いと思う。</li> </ul>	
提案	みんなのため一般	<ul style="list-style-type: none"> <li>●書道展等、高齢層が対象のものが多い印象。高齢層の方は、来ることが習慣になっている部分もあるので、小山市や小山市周辺の若手芸術家に場所を提供する等、今までに来ていない層の流れを作る必要があるように感じる。</li> <li>●避難経路の案内はありますが、その先に入ったことがないので、もし火災などの際、ドアを開けた後、どこにどう逃げたらいいのかわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ギャラリーと同様(=高齢層が対象のものが多い印象。高齢層の方は、来ることが習慣になっている部分もあるので、小山市や小山市周辺の若手に場所を提供する等、今までに来ていない層の流れを作る必要があるように感じる)</li> <li>●もう少し広さがあり、収容人数を増やせればと思う。ステージの高さ、広さに一考を。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●机、いす少しへらすとちょうどよいと思う</li> </ul>
	利用上の課題や都合	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヨガサークルとして活用した場合、時間割当てが約3.5時間と長く実際は1.5H程度しか利用していない。テニスの様に2時間ごとに利用ができれば他のサークル等で1日利用回数が増えるのでは。</li> <li>●絨毯の更新がされると良い</li> <li>●ホールのような、準備室や休憩室があるとよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ステージ袖に仕切りがあるとよい</li> <li>●観覧としては手狭</li> <li>●ホールで開催されたセミナーと百人一首大会に参加したことがあります。講師が県外の方でしたが新幹線利用で便利だと話されていました。小部屋もあるので人数に合わせて使用しやすいと感じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工夫を強く希望します。テーブル・イスの清潔さや使いやすさ(学生さんだけでなく)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共施設なのにWifiなどインターネットへ接続できない</li> <li>●1つの部屋をパーティションで2分割した。パーティションの設置は、容易ではなかったので、センター側でしていただけないか？(撤収も)</li> </ul>
感想、その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ギャラリーって何処？</li> <li>●目立たなかった。</li> <li>●センター主催の講座に参加</li> <li>●もっと展示会等があってもいいのになぁと思います。せっかくの施設なので！</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さめだが、使いやすいように感じる</li> <li>●広くないのでアットホーム感がある</li> <li>●良かったと思う</li> <li>●程良い集客数</li> <li>●ヨガ教室の参加</li> <li>●童謡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラウンジがあること自体知りませんでした。</li> <li>●コロナが収まればより使いやすいと思う。</li> <li>●静かでよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主催者の気遣いで変わると思う</li> <li>●ハローワークのセミナーが開催されているので必要</li> <li>●可もなく不可もなし</li> <li>●かなり前です。忘れました。</li> </ul>	

問2-5：日ごろ、センターを利用されている方で「気に入っているところ（好きなこと・もの）」はありますか？

便利	立地面：家から近く、帰りに買物ができる
	ソフト面：清掃もよく行われているように思う。スタッフの態度も良いのでは？
	ハード面：古さは仕方ないが
	場所が近く、広い
	飲料の自動販売機がある
	駅近くに住んでいるので行いやすい。
	すぐに行けて、煩わしさが無い。自由。
	近いので使い易い
	とにかく立地が良い。茨城方面、宇都宮方面、栃木方面の真ん中で。駅近、安く借りられるのは大きな魅力。
	近くに食料品販売店・その他販売店があり、日々の買い物もできる 帰りに買い物ができる。
手軽な料金	安価である！近い！
	安い料金で利用できること
	手軽な価格で利用できること
	駅の近くで利用しやすい。受講料が安い
	低コストで講座がうけることができる
	講座の料金設定がありがたい
気軽に参加できる	講座を学習センターで開催していただいている事に感謝です。コロナ時に自主事業でと言われ、大変苦労したので実感！！です。
	他県から情報
	気兼ねなくできること
	貸し会議室として会場
	友人づくり
	何年か前より利用しております
近くて便利	ホール座席がフリーに変更できること
	講座内容と駅からすぐのところ
	家から通うのに近い
	家から近い
	家から近い
	家からあるいは駅から近い
	駅に近く便利
	楽しく学べる場所が近くにあり、ありがたく思っております
	駅に近いので便利であり、料金もリーズナブル スタッフの方も親切で感じが良いところ
受け付け、カウンターの対応がとても良いと思います。	
職員	職員の対応が良い。
	とても良い場所で良い事務員の方達です
	スタッフの方々の雰囲気が良い。
	センターの職員の方が親切でよく面倒をみてくれます。
	スタッフの笑顔、接し方でやるきになる。
	職員の方々の対応に好感が持てます
	第一にスタッフの方々の対応がとても親切です。
	職員の方々がわかりやすく説明して下さる
	スタッフの方々の接し方が、丁寧で親切です。
清潔	清掃がゆきとどいている
	清潔感があること。ゴミ一つ落ちていないのですばらしいと思います
交流、出会い	自分の興味にマッチングした事、仲間と出会えた
	魅力的な講師の先生に充実した内容の講座を受けられ、またそこを通じて気軽に交流できる友人ができたことは自分にとって宝物です
	センターで顔を合わせているだけなのに皆さんニコニコあいさつをかわしてくれるので楽しい時間が過ごせるのが嬉しいですね
ヨガ・ストレッチ講座が受けられる	いまは満遍なくいろいろな人に公平にという考え方なのですがここ2年近くは抽選にて講座を進めており運動がこのさき出来るのかどうか不安定でした生涯運動をしたいとおもっておりましたので抽選に外れてしまわないか不安でした。今後、安定して学べるようになることを祈ります
	体操教室などの講座を続けていて健康の維持に役立っている。現状維持していただきたい。
	受講料が安く、専門のインストラクターや講師から学べる。スポーツジムのようにレッスンを受ける為に時間前から並ぶ必要がないのがうれしい。
	ヨガ講座、体作り、体改善のできるもの
	ヨガ講座がシニアでも無理なく出来る事。
	センターに歩いて行ける。ストレッチを学ぶことができる 体力のおとろえを守る



かつて魅力があった	以前より(来ることが)少なくなりました、発表会のようなものに参加したことはあります。楽しかったですが、他の人との交流はありませんでした。
意見(苦情ほか)	広報で募集されている内容が毎回同様で目新しさが無い。興味がわからない。もっとアンテナ高くして講座とかを企画してほしい。生涯学習の殿堂として。
	駐車料金がネック
	施設そのものが、他の施設との差異が解りにくい。ゆめまち、おやまー等重複している施設がある。
	生涯学習であれば、ホールやギャラリーは文化センターで行うべきでは。施設の目的が解らない。また、セミナー室等を企業が利用しているが、目的にそぐわないのではないか。
	学生が勉強できるような机があってもよいと思う。
	特に無し
	駐車場利用時の料金割引

問2-6：最後に、今後の小山市の生涯学習活動に関する取り組みに対して、期待することやご提案などありましたら、自由にお書きください。

在り方、提案	生涯を通しての学びがゆくゆくは地域へ還元されることを理想とするならば、親子2世代3世代で参加できる(子どもが地域や将来を意識するための)講師をもうけるのもよいと思います。	
	織田信長が行った楽市楽座のようなイベント変人奇人普通天才異人何でもありの学習場所	
	ポイント制度を導入し、たまったポイントを講座の費用や市の特産品の購入に充てることができるなど、他の市町村と一線を画するような取り組みがあると楽しそう。	
	ペットタウンの印象が強くなっているなかで、地元が小山の方とそうでない方が、小山市という共通点からどのようにつながっていくのかは課題に感じている。生涯学習センターという拠点を最大限に活用した交流はそのような課題の解決していく上で重要なピースの一つであるように感じられるため、有効に活用していきたい。	
	日頃、認知症の父を介護する母を休ませるため、父と二人でちょっと出かけたいけど、共有できる場所がありません。例えば、父は合唱を聞くのが好きなので、合唱を聞いたり、一緒に歌い踊れるような、老老親子で周囲を気にせず、安心して楽しめる場所があったら嬉しいです。	
	勝手ですがシニアにも参加しやすい、そしてリラックスできる環境も期待しています。いろいろお世話になっています！！ありがとうございます。	
	もっとどのような事をしているのか知りたい。知らないと学ぶ事に繋がらないため。	
	シニアのため、初心者のため、といった難易度低い講座だけではなく、より深く学びたい大人や学生向けのハイレベルでマニアックな内容の学び場があると良いです。無料お試し講座やイベントに期待します。	
	スポーツだけでなく、医療や子供の情操教育に役立つような様々な楽器を体験できる講座も欲しい。スポーツと芸術の脳の領域に近いのは既知の状況で人間が成長する両輪となるように考える	
	さまざまな世代が足を運び交流でき営みや生きがいにつながるものを期待しています	
	老人が家にとじこもる事のないよう外に出て体を動かしたり、人と話ができるようにしたい	
	悩みがある人のいやしの場になるような場所	
	世代間交流ができる取り組み	
	趣味つながりのマッチング	
	若者が対面で交流できるコミュニティを積極的につくってほしい	
	社会的弱者の声なき声をいかに集められるか。他にに安心の子育ての環境作りなどこれからの社会不安を支えるセーフティネット作りのための発信をする。またはプラットフォーム作り。	
	生きがいづくりに役立てる。	
	身体を動かし健康でいたいひとがますますおおくなるのでは？安心して続けられる場所をお願いします	
	学習する場であってほしいと	
	外に出てリズムを作ることがうれしい	
	市民や市民以外でも交流の場であってほしい。	
	意見を聞いて反映して欲しいです	
	高れい者に向けて認知症、介護予防に向けての活動	
	学ぶ事も大事だが、円滑なコミュニケーションをとれる場の提供も必要と考えます	
	広報	生涯学習自体縁遠いよくわからないものになっている。そこをどう市民に浸透させて行くかが何より課題と考える。
		情報発信の方法を幅広く行ってほしい
		取り組み、行事等のPRをもっと積極的にしてほしい。情報が少ない。
	『生涯学習』も分かりやすいのですがネーミングをもっと柔らかい感じにして欲しいです。お堅いイメージで高齢の方が行くところという感じです。近寄りたいたいです。	
生涯学習センターの在り方	生涯学習センターで何をやっているのか自体わからないので、残念。	
	そして、同じ人、高齢者ばかりという印象があり入りにくい。	
	子育て世代や、もっと常連ではない人が安心して気を使わずに参加できるようにして欲しい。	
	暇な退職された男性が多いと、しつこい、くだらない話しになる等、嫌気がさす。	

生涯学習センターの在り方 (続き)	コンサート等をもっと開催して欲しい
	急に新しくというより、今までの利用の継続
	wifi が使えるようにしてほしい
	学習の為の図書館が他に比べて貧弱すぎるので企業から寄付を募って改築してほしい
	生涯学習法から外れたことはおかしいと思うが、生涯学習法の目指すところが解りにくい。市民や近隣住民を利用者とするべき所、市民サービスに関係のない企業や団体が利用しているのはなぜか。
	自由に使えるようにしてほしい
	施設利用申請等の簡略さ。
	決まり事が多い
	貸し会議室として
	講座や、セミナーをオンライン予約できるようになって欲しい。欲を言えば支払いもオンラインで出来たらいい。
	市立図書館の本を生涯学習センターで返却できるようにしてほしい。
	気軽に参加できる環境づくり
	がんばってほしい
	気軽に参加できる環境づくり
	・避難経路を明確にして欲しい
生涯学習センターは駅近で電車利用者には便利だが、以前のセミナーの参加者で電車利用者は一人もいませんでした。市内在住者で障害	
(生涯学習センターの) 広報	さまざまな取組みをされていると思いますが、私は一度も利用したことがないので生涯学習センターのことをよくわかりません。PR に力を入れてみては？
	以前はロブレに買物の時に立ち寄る事も多かったのですが、今は行くことがありません。何をやっているのか情報を頂ければ足が向くと思います。
	何をしている場所なのか理解していない人も多いでしょうし、市が積極的にアピールする事。
	生涯学習センターで何をやっているか、さらに小山広報などで PR して知らせたい
(生涯学習センターの) 料金	公民館などは、会場予約がひと月ごとなど、毎月手続きに行くのが大変ですが、センターさんは年間予約ができるので、是非継続していただきたいです。が、会場費は公民館などより高いと思われます。できれば公民館などと同等に、ご検討いただきたいです。
	利用しやすい料金設定で続けていただけたらこれからも長く続けたいと思います
	年金受給者なので安い料で学べる機会を得たい。
	施設利用料を安くしてもらいたい
貸館業務の在り方	学びたい気持ちはありますが、内容に興味がかかれなく受講していません。学習室などグループでかりようと思いましたが公民館に比べ高いです。
	単なる貸し館だけでなく他の公民館と同じで職員がやることでなく委託した方がいいと思います 貸館業務がメインなら特に市職員を配置しなくても外部委託で十分です。
講座	マンネリ化を防ぐ努力をすることが必要
	単発での講座で友人知人をつくることは不可能
	働く世代がスキルアップしていけるような講座があると良いと思います。
	土日にも講座が受講できると嬉しいです
	これからもずっと続けて下さい。
	このまま続けてほしい。働いている方がやさしく気持ち良く来られる
	このまま継続してほしい
	今のままでよいと思いました。
	ぜひ続けていただきたいです
	単発の講座、短期間の(入門)講座など、広く開いてほしい。
	人気の講座については、継続・新規を増やすなどでできればよいのでは
	体を動かす事ができるダンス(ソシアル以外)など
	ヨガ講座を継続したいです
	家から歩いて行けて安価でストレッチを学ぶことができる場所を続けてほしい。月に2回の学習でも良い。
	高齢者の健康維持のために、これからもこの様な講座をつづけて頂きたい
	新たな講座を増やして欲しい
	趣味の講座などもっと増やして欲しい。
	若い人向けの講座や資格取得などのセミナーをやってほしい
	資格が取れたり、学校的な存在だと嬉しい。シニア大学的な。
	子ども会育成会に関する講座や公助・共助のあり方の勉強会など
今迄通り色々な講座を続けて下さい	
講座内容の充実	

	講座の偏りが見受けられる
	講座は受講者の自主事業ではなく、学習センターでやっていただけると嬉しい！！
	リーズナブルな講座を増やしてほしい
	もっと講座の種類を充実してほしい
	セミナー、講座、演奏会などを今後も継続していただきたい。
	オンラインも時に
	短期でやめないで継続出来るようにしてほしい
講座の在り方	高齢化に伴い、こういった場所と講座は必要です。サークルとしての活動だと取りまとめる人の負担が大きくなる人がいない…その結果実行できなくなるのが不安です。
	オンライン、単発の参加しやすい講座(急に出られない、予定を立てられない等でも、思い立って参加できると有り難いです。(開催側は大変だと思います)駐車料金の割引があれば、もっと利用者は増えるのでは…？
	自分も含め、今まで利用したことのない人達、これから仕事をする世代、現在仕事をしている世代→稼がなければいけない世代中心に学べる施設として、イベントや講座等開催していただくと嬉しいです。
	広報を見たが、講座の内容がシニア専用？と思ってしまう。若者や働く人達が行きたいと思ったり、役に立つ講座を期待したい。夜間の講座もあるとありがたい。学びたい気持ちを持つ人はたくさんいると思う。
駐車場	皆さん車か自転車でしたが、車だと1時間のセミナーで前後の時間を入れると、駐車場代が500円かかります。城南出張所や中央公民館な等なら駐車場代は不要なので、そういった場所に移した方が良く考えられます。
	「以前から現在地を利用している」ではなく、利用者の交通手段をしっかりと調査し(参加者の調査は簡単なはず)適切な場所に移動すべきと提案します。
	・駐車場を無料にしてほしい
	車の駐車料金が高すぎる。他は無料です。せめて生涯学習センターを利用している人達は安く、又は無料にしてほしい
	現在も文化センターや各公民館等で様々な講座やサークルが活動していますが、利用者のニーズに寄り添った運営が必要かと感じます。生涯学習センターを現在の場所で今後も活用していくとすれば、駐車場への運転や料金のことを考えれば利用が難しい方も多くいらっしゃると思います。また、これまでは買い物もできるという楽しみも期待できましたが、現在の状況ではそれが難しいので人がどれだけ集まるかということも考えなければなりません。駅に隣接しているという利点が生かされると良いと思います。
	遠隔地の人が通える交通環境
	参加時間帯の無料駐車場など
	講座に参加の際、車で来ています。
	他の店舗では、駐車場の無料スタンプ割引があるのに、センターの利用の時は必ず有料になってしまいます。是非無料スタンプ、時間割引をお願いしたいです。
	駐車場代が高い
	駐車場を安くかりて下さい
	駐車場の無料化
	駐車場と施設の料金について安く
	時間が長くなると駐車場代が高くなり負担が増える！
	講座は短期ではなく長期でお願いします
	ロブレ駐車場を無料で使用したい
その他	今後ともよろしくお願いします
	もっといろいろ出来るとよい
	特になし。今後ともよろしくお願いします
	市役所職員よりも民間のサービスに期待します
	広報に掲載された複数の講座の申し込み日時がまったく同じなので、電話がつながりにくいです。ここに書くべきじゃないのかもしれませんが、書く欄が見つかりません。質問の内容も偏っている気がしました。
	性別既婚未婚を聞くのはおかしい
	正直以前学習センターの人に質問したことがあったが、あまりにも冷たい対応でがっかりしました。

## 小山市立生涯学習センター ご利用の状況と期待に関するアンケート

このアンケートは  
オンラインによる  
回答も可能です。  
ご利用ください。



小山市では、小山市立生涯学習センター（以下「センター」）のより良い運営に向け、利用に関するアンケート調査を行うことになりました。

今後、より便利なセンターとなるよう、またセンターの魅力を知ってもらい活用のきっかけを提供したい、との思いでアンケートを構成しました。率直な回答をお寄せいただければ幸いです。

担当課 小山市教育委員会 TEL 0285-22-9665  
生涯学習課生涯学習係 FAX 0285-22-9650  
(FAXでも回答いただけます)

### 小山市立生涯学習センターについて

小山市立生涯学習センターは、生涯学習活動をはじめ様々な市民活動を通じて市民相互の交流を促進するとともに、地域づくりに寄与する施設として平成6年6月に設立されました。

- ・所在地 小山市中央町3丁目7-1 ロブレ6階(専有面積1832.15㎡)
- ・開館時間 午前9時～午後9時30分(年末年始休館)
- ・施設概要 事務室、ラウンジ、ギャラリー、セミナー室、和室、託児室兼資料室

### 1. あなたの小山市立生涯学習センターの利用状況についてお伺いします

① センターを日頃どのような頻度で利用されていますか？（一つだけ○をつけてください）

1. 毎日 2. 週に2～3回 3. 週1回 4. 月に2～3回 5. 月1回 6. 年数回 7. 利用したことがない

② センターまで、どのように出かけますか？（いくつでも）

1. 徒歩 2. 自転車 3. おーバスや電車 4. オートバイ 5. 車 6. 送迎

うら面の回答へ  
お進みください

③ センターの行事や施設のうち、利用や参加をしたことがあるものはどれですか？（いくつでも）

1. 講座・セミナー 2. 会議・打合せ 3. 演奏・舞台  
4. 交流・まつり 5. 図書・資料 6. 展示・発表  
7. その他( )

④ 館内のギャラリーやホールなどの施設を「使ったことがあるかどうか」と「使って気づいた点」について、教えてください。（「良い事」でも「悪い事」でも構いません）

	使ったことがあるかどうか	使って気づいた点(あれば)
ギャラリー	1. 観覧した 2. 主催者等として利用した 3. 使ったことがない	
ホール	1. 観覧した 2. 主催者等として利用した 3. 使ったことがない	
ラウンジ	1. たまに休憩する程度 2. 好んで利用する 3. 使ったことがない	
セミナー室	1. 参加者として入室した 2. 主催者等として利用した 3. 使ったことがない	

⑤ あなたが感じるセンターの魅力について、該当するものはどれですか？（一つだけ○をつけてください）

1. 受けたい講座がある 2. ラウンジで自由に過ごせる 3. 利用しやすい料金設定  
4. 駅の近くにある 5. 施設が借りられる 6. 場所がわかりやすい  
7. 一緒に学ぶ仲間と出会える 8. 多くの学習情報が得られる 9. 指導者に会える  
10. その他( )

裏面にも回答をお願いします▶

